



休眠預金等活用事業2020年度通常枠 事後評価報告書

困難を抱える子ども若者の孤立解消と育成

資金分配団体 一般財団法人ちくご川コミュニティ財団

2024年3月



ちくご川コミュニティ財団

はじめに

人口減少と過疎化が急速に進む福岡都市圏の周辺地域は、次代を担う若者を育てることが急務である。しかしながら、貧困や社会的孤立により困難を抱える子ども・若者が多い。子ども・若者をできるだけ多くかつ早く孤立から救い、自力で生活ができるように支えていくことが、本地域を持続可能な社会にする鍵である。本事業では、その鍵を見つけるために、ちくご川コミュニティ財団と認定 NPO 法人わたしと僕の夢、一般社団法人みんなの家みんなが、山あり谷ありの3年間で共に過ごした。

本報告書では、アウトプット、アウトカムの成果とその考察を中心に報告する。特に、実行団体の事業（資金的支援）の成果に対して、伴走支援（非資金的支援）がどのように効いたかを明らかにすることをテーマとしている。報告書は3章で構成されており、「1. 事業概要」で事業の全体像を示し、「2. 事後評価について」で事業の成果と考察を述べ、「3. まとめ」で本事業の総合的な評価を行い、今後の展望や提言を記した。本文中に詳細を説明できないものについては添付資料にて補足している。



▶2024年3月20日の事業完了報告会。JANPIA、資金分配団体、実行団体の三者や事業関係者、一般参加者約60名が集まった。

目次

はじめに	2
要約	4
1. 事業概要	
1-1. 基本情報	5
1-2. 団体情報	6
1-3. 包括的な支援プログラムの概要	7
2. 事後評価について	
2-1. 実施概要	10
2-2. 事業成果について	
2-2-1. インプットの内容	13
2-2-2. 活動・アウトプット・アウトカムの実績、結果の要因と課題	14
2-2-3. 外部との連携実績	51
2-2-4. 事業による波及効果	52
2-2-5. 事業の効率性	53
3. まとめ	
3-1. 結論	54
3-2. 提言	57
3-3. 知見・教訓	58
添付資料	59

要約

本事業は、貧困等により困難を抱える子ども、社会的に孤立している若者を直接的対象グループとし、認定 NPO 法人わたしと僕の夢、一般社団法人みんなの家みんかの 2 つの実行団体と 3 年間の事業を実施した。事業終了後 5~10 年後に目指す中長期アウトカムを「筑後川関係地域において、貧困や社会的孤立により困難を抱える子ども若者が居場所や相談場所を持ち、地域で学び、働きながら成長し、持続可能な社会の担い手となるモデルができています。」と設定した。これに続く、資金的支援の短期アウトカムを 6 個とアウトプットを 15 個、活動を 112 個、そして、非資金的支援の短期アウトカムを 6 個とアウトプットを 21 個、活動を 62 個設けた（詳細は添付資料 1_ロジックモデルを参照）。事後評価においては、わたしと僕の夢の子ども達の QOL や非認知能力の変化、みんなの家みんかの存在が若者に与える影響、そして、特徴の違う二つの実行団体に対してオーダーメイド型で行った伴走支援の効果などをポイントに評価を実施した。

資金的支援の短期アウトカム 1「わたしと僕の夢に在籍している子どもや卒業生（高校生）が様々な困難を抱えても、安心して帰って来られる居場所・相談場所を持続的に運営できている」については、無料塾の卒業生（高校生）は毎月述べ 100 名前後が来訪するまでになり、信頼できるスタッフや友達に会い、悩みを相談できる環境となっている。また、子ども達自らイベントの企画をしたり、卒業生が無料塾に軽音部を作るなど、子ども達の協調性、計画性、粘り強さなどの非認知能力が向上する活動も実施できたと考える。短期アウトカム 4「若者がみんなの家みんかに滞在することで、自分と向き合う時間を持ち、様々な人や物事と出会う中で、自分の生き方をみつけるきっかけができています」については、自然環境豊かな中山間地域に安心してゆっくりできる滞在場所を整備できたことで、滞在した若者がみんかに関わる人々と交流し、自身の人間関係について考える機会ができたり、滞在から就労にまで結びついた若者がいたりと一人一人にきっかけや変化をもたらしたと考える。

そして、非資金的支援（組織基盤強化）の短期アウトカム、アウトプットには、両団体に対してそれぞれ違う指標の設定を行い、伴走支援のツボの押し所を変化させた。わたしと僕の夢は、理事会の再編や新規スタッフの採用等により組織体制を強化し、新規事業を 4 つ開始、経常収益が本事業開始前の 2.8 倍増、寄付収入は 4.3 倍増となった。みんなの家みんかは、任意団体から一般社団法人化を果たし、定款の作成、理事会の設置、財務諸表の作成などを通して、団体の信頼性の向上ができた。また、情報発信についての伴走支援にも力を入れ、公式ホームページの開設、ニュースレターの定期発行、SNS による積極的な発信などができるようになった。伴走支援を通して、当財団自身も成長し、PO 人材は開始時の 1 人から 5 人に増加し、新規事業を 5 つ開始でき、経常収益は開始前の 13.9 倍にまで増加した。

わたしと僕の夢については本事業で得られた高校生支援の成果をもとに公的支援制度の導入に向けて政策提言をしていくこと、また、食支援+体験・学習支援という確立された方法を他地域にさらに広めていくことが必要と考える。みんなの家みんかについては、既にある自然資源を生かした商品の販路拡大により収益事業を成長させ、事業を支える財源としていく必要がある。また、当財団については休眠預金の活用により事業が確実に成長し、共感を得やすくなってきている。そのため、当財団自体を支える仕組みとしてマンスリープログラムを強化し、地域に支えられる仕組みを確立する必要がある。

本事業実施による知見・教訓としては、PCM の手法を活用しながら、プログラムオフィサーが現場重視の姿勢を持ち、一次情報にしっかりと触れ、課題の分析を行い、事業設計（ロジックモデルの作成）をしていくことが事業を成功させる要であると考えます。

1. 事業概要

1-1. 基本情報

資金分配団体名	一般財団法人ちくご川コミュニティ財団
資金分配団体事業名	困難を抱える子ども若者の孤立解消と育成
事業の種類	草の根活動支援
実行団体	認定 NPO 法人わたしと僕の夢 事業名：貧困の子ども達が貧困の連鎖を断ち切り自立するための仕組みとふるさとづくり
	一般社団法人みんなの家みんな 事業名：児童養護施設退所者ならびに生活困窮にある若者の自立支援の家づくり
実施期間	2020 年 11 月～2024 年 3 月 31 日
事業対象地域	筑後川関係地域（福岡都市圏及びその周辺地域）

1-2. 団体情報

資金分配団体

一般財団法人ちくご川コミュニティ財団



市民ら発起人 220 人により福岡県初のコミュニティ財団として 2019 年設立。九州最大の河川「筑後川」が流れる、福岡県全域と佐賀県東部、熊本県荒尾市・小国町・南小国町、大分県日田市を「筑後川関係地域」と呼び、事業対象とする。個人や法人からいただいた寄付、スキルなどの資源を、筑後川関係地域で活動する NPO やボランティアなどの市民社会組織（CSO）へ届ける「助成事業」「組織基盤強化」「環境整備」の 3 事業を実施。筑後川関係地域で活動する CSO の中間支援組織として機能している。

所在地：福岡県久留米市梅満町
代表者：宮原信孝

実行団体

認定 NPO 法人わたしと僕の夢



広がる格差社会の中、経済的に困窮している母子家庭などを支援しようと 2010 年に福岡県久留米市で無料塾をスタート。2018 年には佐賀県鳥栖市にも開所。経済的困難な家庭やひとり親世帯の小中学生を対象に、学習支援と食支援を実施、高校入学までをサポートする。地元企業や団体と連携し、子どもたちに社会体験活動を幅広く提供。塾を卒業した後も、子どもたちが悩みや進路を相談できる居場所づくりも行なっている。本事業は久留米教室の事業を対象とした。

所在地：福岡県久留米市東和町 4-4 ウイングコート久留米
代表者：佐藤有里子

実行団体

一般社団法人みんなの家みんな



児童養護施設出身者および生活困窮している若者などに対し、自立支援のための居場所を無期限で提供することにより若者の社会的孤立解消を目指す。自然豊かでありながら過疎化の進む山間地域で、滞在する若者たちが住民との交流や農作業、伝統文化の体験などを通して地域の新たな担い手となることで、地域の持続可能性を高めることも事業の目的とする。古民家を改装した「仮みんな」同敷地内の「本みんな」で対象者の若者がのびのびと滞在できる。

所在地：福岡県朝倉市黒川 1762-2
代表者：師岡知弘

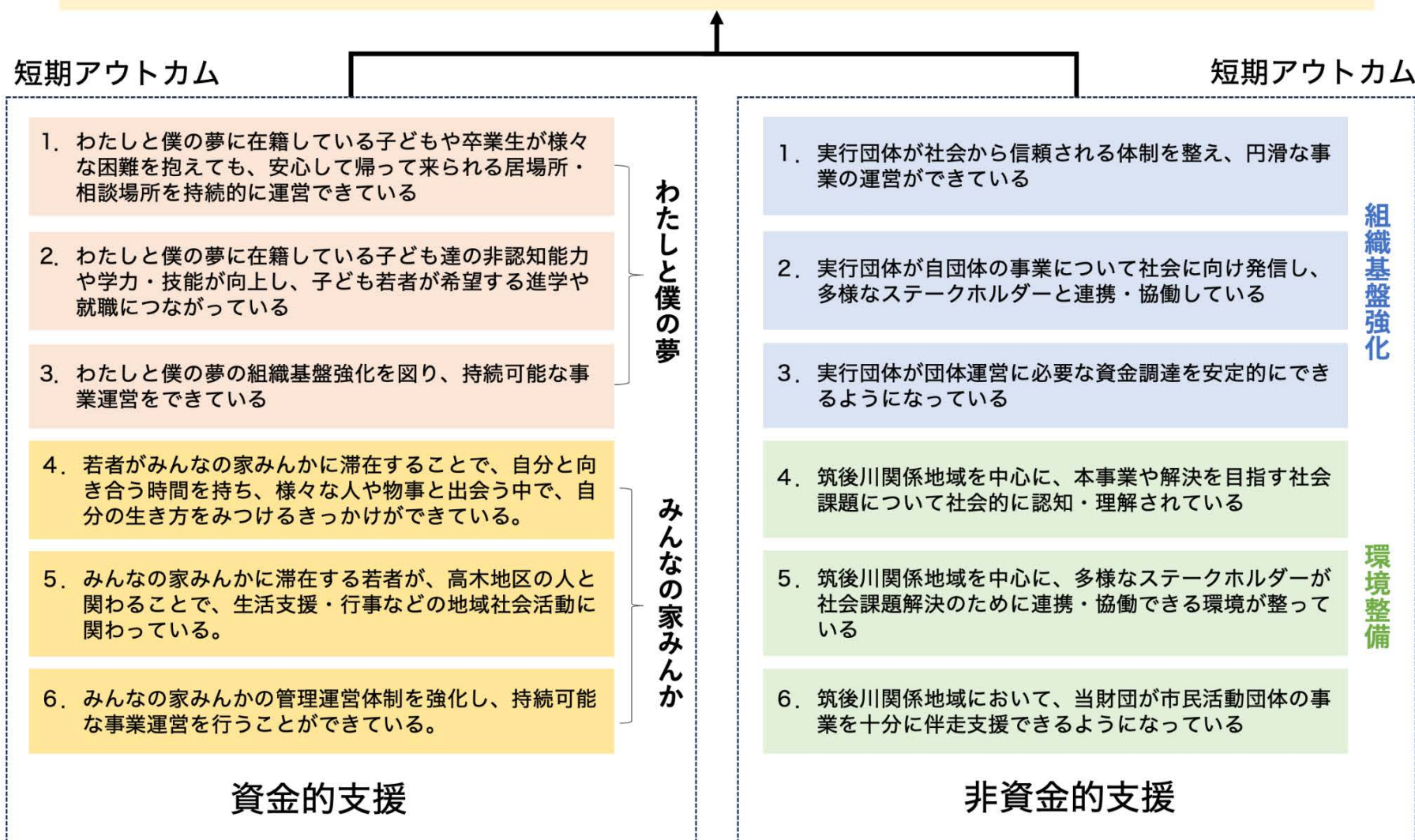
1-3. 包括的支援プログラムの概要

解決を目指す社会課題	人口減少と過疎化が急速に進む福岡都市圏周辺地域は、次代を担う若者を育てることが急務である。しかしながら、貧困や学校等既存教育機関への不適応等の困難を抱える子ども若者が多い。これら子ども若者をできるだけ多くかつ早く孤立から救い、自力で生活ができるように支えていくことが、本地域を持続可能社会たらしめる鍵である。 上記の社会課題を踏まえ、福岡県及び県下各市町村は、子どもの貧困対策推進計画を策定（福岡県 19 年 12 月、県南第一の都市久留米市 20 年 5 月）した。これらは、行政と関係団体並びに CSO 等が協働して包括的に対応するもので評価できるが、具体的な孤立事例への対応が CSO 等に任されている。また、CSO 独自の取り組みに対する行政の対応は遅く、鈍い。従って、これら推進計画を補完する上でも CSO 等への資金的・非資金的支援が必要である。本事業は、当財団設立当初からの優先課題取組みの一環であり、困難を抱える子ども若者の社会的孤立を解消し、誇りある人生を送る社会の一員として育成する、というものであり、地域の公益を増進させるものである。また、本事業は、行政が課題としつつも目が届かず、民間が先進的取り組みをせざるを得ない課題の解決に取り組むものである。従って、休眠預金等交付金に係る資金の活用に対応しく、かつ預金者にも納得のいくものと確信する。
直接的対象グループ	①貧困や社会的孤立等の困難を抱える子ども若者と家族（わたしと僕の夢） ②過疎地域の持続可能化に参加し、自らも社会的孤立から脱しようとする養護施設卒業者や孤立家庭出身の若者と同地域を活用する子ども達（みんなの家みんな）
間接的対象グループ	①被支援者 OB/OG。これらの事業を理解し、支援・協力を行っている組織・団体・個人 ②過疎化する地域の住人、同地域を子どもの教育などに活用しようとする親、更には、旅行者
事業の概要	福岡県及び筑後川流域の佐賀県、大分県、熊本県において、次のような事業を行う実行団体を公募で選定し、対象グループの孤立解消と育成を図り、次代を担う若者が増えていくモデルと環境をつくる。 1. 貧困家庭の子どもの孤立を解消し、社会化と学習が進む環境をつくる。子どもの居場所と帰ってくる場所（ふるさと）づくりを行う。 2. 社会的に孤立する子ども・若者を、過疎化する地域で育て、同地域を居場所・ふるさとにし、同地域の世代交代が可能となる地域づくりを行う。
出口戦略	1. 当財団は、中間支援団体として自走化できるよう、次のような取り組みを計画している。 1) マンスリーサポーター1000人プロジェクト（千人PJT）開始。

	2) 個人・企業にネットワークをもつ当財団発起人に依頼して紹介を得寄付を募る。 3) 遺贈セミナーによる遺贈の一般常識化と遺贈寄付の増加。 4) 関係社団法人創設。同法人収益事業から当財団へ寄付。 5) 伴走支援を行っている団体の非営利・営利の収益事業収益事業からの指導料。 6) 財団所在の久留米市に対し佐賀県型 NP0 等支援ふるさと寄付制度導入を働きかけ。 2. 休眠預金事業終了までに次を達成するべく努力。 1) 千人 PJT で 300 人を達成。 2) 公益財団法人化を図り、10 万円/年の寄付企業を 50 にまで増加。 3) 関連社団からの寄付が 500 万円/年に到達。 4) 久留米市が上記ふるさと寄付制度導入。 2. 実行団体の出口戦略の計画は以下の通りである。 1) マンスリーサポーターなどサポーターグループづくりを中心として、行政に頼らないで活動を継続できる財務基盤の強化を行うことで、持続可能な団体となる。 2) ファンドレイジングへの理解を深め、新しいファンドレイジングの戦略を立て実施する。 3) ストーリー性のあるテーマでクラウドファンディングを実施し、認知度を高めて協力者の増加を図る。 4) ふるさと納税による NP0 等支援制度の活用により、実行団体の活動を WEB 上で広範囲に PR し、新たな協力者を発掘する。 5) 営利事業を組み込み、財源の持続可能性を改善する 6) 事業の実施により対象地域内外の交流人口を生み出し、支援者の増加に繋げる
--	--

中長期アウトカム（事業終了後5～10年後の目標）

筑後川関係地域において、貧困や社会的孤立により困難を抱える子ども若者が居場所や相談場所を持ち、地域で学び、働きながら成長し、持続可能な社会の担い手となるモデルができている。



2. 事後評価について

2-1. 実施概要

実施体制	内部	統括	宮原信孝/（一財）ちくご川コミュニティ財団/代表理事
		評価の設計・分析	庄田清人/（一財）ちくご川コミュニティ財団/理事・事業部長
		調査の実施	柳田あかね/（一財）ちくご川コミュニティ財団/理事・企画広報部長
	外部	評価に関する専門的知見からのアドバイス提供	中村寛樹/久留米大学基盤教育研究センター/教授

【事後評価のポイント】

①どんな変化をこの事業の重要なポイントとして設定し評価を実施したのか

- ・わたしと僕の夢の事業において、塾の卒業生（高校生）への居場所づくりを行ったことによる対象者の非認知能力の変化
- ・みんなの家みんなの事業において、社会的に孤立した若者に対して、制度上にはない新しい居場所をつくったことによる対象者の変化
- ・特徴や組織のフェーズが違う2つの実行団体に対して、オーダーメイド型で伴走支援を実施したことによる組織基盤の変化

②調査結果をどのように深掘りし価値判断をしたのか

- ・（わたしと僕の夢）対象の子ども達の変化について、QOL や非認知能力についてのアンケートを実施し、かつ、プログラムオフィサー自身も子ども達の様子を参与観察した
- ・（みんなの家みんな）滞在した若者の声、SNS 上でつながっている若者の声を定性的に評価すると共に、社会的養護の専門家に事業に対する客観的意見を求めた
- ・両団体の組織基盤強化の結果に加え、事業完了時に非資金的支援やP0の関わりについてアンケート・ヒアリング調査を実施した

下記の評価表に基づき調査を実施。

評価の要素	評価項目	評価小項目	評価基準	測定方法			時期
				データ	情報源	データ 収集方法	
調査① 実施状況の 分析	実施を通じた 活動の改善、 知見の共有	資金分配団体は実行団体からの先進的な活動を学ぶとともにその知見を広く共有できるように整理・蓄積しているか。	実行団体の事業・活動から得られた知見などを報告書にまとめているか。	定量、 定性	資金分配団体、 実行団体、評価 アドバイザー	事後評価報告書の内容より収集	2024/3
調査② 実施状況の 分析	組織基盤強化・環境整備	プログラム・オフィサーを含め、内部に具体的な伴走支援のノウハウを蓄積する体制を整備しているか。	事業の企画・運営・管理をできるプログラムオフィサーが2名以上存在するか。また、団体の支援力アセスメントシートにて良好な結果が出ているか。	定量	資金分配団体、 実行団体、評価 アドバイザー	事業終了時点でのプログラムオフィサーの体制、非資金的支援メニューの内容より収集	2023/12
調査③ アウトカムの 分析	組織基盤強化・環境整備	組織の財政状態・財務体質に変化は生まれているか。	当財団の財務諸表の分析から財務状況が健全で、休眠預金等活用事業による助成金がなくとも、持続可能な事業運営ができると判断されるか。	定量	資金分配団体	事業期間中の財務諸表を比較することにより収集	2023/12

評価の要素	評価項目	評価小項目	評価基準	測定方法			時期
調査④ アウトカムの分析	アウトカムの達成度	事業を通して最終的に達成したいアウトカムは達成されたか。	事後評価時の指標の値が目標値を満たしているか。 ※各アウトカムの指標については2-2「事業成果」を参照	定量	資金分配団体、実行団体、評価アドバイザー	①事業進捗の確認から直接的に計量 ②実行団体向け非資金的支援についてのアンケート・ヒアリング ③行政・地域住民向けアンケート・ヒアリング	①2023/9 下旬~ ②2023/10 ③2023/11
調査⑤ アウトカムの分析	アウトカムの達成度	もたらされた変化は多様な関係者間で納得のいく水準のものだったか。	事業の関係者を集めたワークショップにて事業によりもたらされた変化を検証し、納得のいく水準と判断されているか。	定量、定性	資金分配団体、実行団体、評価アドバイザー、事業のステークホルダー	事業報告会での意見交換の内容より収集	2024/1
調査⑥ アウトカムの分析	波及効果	筑後川関係地域（もしくは他の地域）にて、同様の手法による取り組みが始まるといった変化が確認されたか。	事業対象地域（福岡県久留米市、朝倉市）以外で本事業をモデルとした取り組みが始まる兆しがあるかどうか。	定量、定性	実行団体	実行団体へのヒアリングにより他地域への事業展開の情報を収集	2023/12

2-2. 事業成果について

2-2-1. インプットの内容

(1) 人材	【内部】 事業統括者（代表理事）：1名 プログラムオフィサー：2名（主担当1、副担当1） 事務局長：1名 会計管理者（理事）：1名 会計・総務職員：1名 【外部】 評価アドバイザー：2名	
(2) 資機材（主要なもの）	P0用パソコン2台、事務局用パソコン1台、オンラインミーティング用機材（モニター、Webカメラ、マイク）	
(3) 経費実績 助成金の合計		
①契約当初の計画金額	総事業費：70,431,900円	実行団体への助成額（総額）：36,337,700円 管理的経費：6,333,200円 P0関連経費：25,642,700円 評価関連経費：1,856,000円
②実際に投入した金額と種類 ※精算完了後記載	総事業費：63,499,170円	実行団体への助成額（総額）：36,337,700円 管理的経費：5,673,854円 P0関連経費：21,221,595円 評価関連経費：266,021円
(4) 自己資金（円）	① 契約当初の自己資金の計画金額	3,750,000円
	② 実際に投入した自己資金の金額と種類	3,200,000円
	③ 資金調達で工夫した点	クラウドファンディングの実施など短期的なファンドレイジング計画の策定のもと資金調達を行い、かつ、経営合理化による自己資金を確保した。

2-2-2. アウトカム、アウトプット、活動の実績

【資金的支援】

①わたしと僕の夢の「居場所」についての活動、アウトプット、アウトカム

アウトプット1	指標	初期値	目標値	達成時期
1-1. わたしと僕の夢の卒業生（高校生）に長期的で個別的なケアとサポートができている【達成度：◎】 1-2. わたしと僕の夢に在籍している子どもたちに個別的なケアとサポートができている【達成度：○】 1-3. わたしと僕の夢の居場所・相談場所を運営する人材が十分である【達成度：○】	①卒業生の来訪回数や相談回数。 ②在籍している子ども達の数と相談回数。 ③子どものケアやサポートについての記録がされている ④居場所を運営する常勤教師・職員の雇用の安定、講師・ボランティア（プロボノ）の数	①数人の卒業生が来訪するようになってきている。 ②子どもの在籍数は増加傾向にあり、相談対応が必要なケースが出てきているが、組織的な対応はまだ不十分である。 ③個別のケース記録などはなされていない ④居場所事業全体を統括する担当者がいない。また、子ども達や保護者の相談に乗る部署もなく、気づいたときに個別に対応する状況。また、OB/OGが訪ねてきても親しくしていた教師等が必ずしもいない状況。	常勤の教師乃至職員が居て施設のプログラムを統括運営し、子ども・保護者・OB/OGの相談・来訪に組織的に対応できる。	1-1. 2023 年 10 月 1-2. 2023 年 4 月 1-3. 2022 年 10 月
活動	1. 帰巣場所の改造整備(居場所と学習室)、 2. スタッフの所得の安定、 3. 卒業生への情報発信と卒業生の情報収集、 4. 専門職員の配置、 5. 卒業生の日(当面月 1 回イベント開催等)、 6. 卒業生の連絡網の整備(ex. LINE)、 7. 相談員の配置(進路・就職・悩み等相談/当面週 1 日)、 8. 卒業生による塾生のフォロー、 9. 食事支援、 10. 関係団体のワークショップ参加、 11. 専門家の指導、 12. 講師の研修会(四半期に1回)、 13. 衣類学習用品の提供、 14. 日中に居場所のない子どもに対するフォローアップ、 15. イベント・行事(職業体験/模擬飲食店、成人式/着物・写真、食事会・料理教室・高齢者との交流)、 16. 来塾が困難な子どもへの家庭訪問による学習食事生活支援、 17. 関係団体との連携、18. カウンセリング、19. 休憩室・カウンセリングルーム設置、 20. 卒業生と塾生の交流機会の創出、 21. 高校生支援についての行政連携、 22. 居場所スペースの拡大、 23. 個別スペースの設置、 24. スタッフの増員			
アウトプットの実績				
①卒業生は事業開始前は月 10 名前後の来塾者数であったが、今年度には毎月述べ 100 名前後が来訪するまでになり、東和塾において卒業生の来訪数が中学生の来訪数を上回る月もあるようになった。月 5～10 件前後の相談が継続的にある。 ②既存教室在籍者数は 82 名で新規参加者の定着率も高く、新たな 3 教室の在籍者はあわせると 60 名に迫る				

③毎週の定例ミーティングで個別情報を共有蓄積し、担当職員、専門職、関係行政機関、連携企業や団体に繋いでいる。個別記録は約 50 名分記録蓄積されている。

④事業開始前の職員数は5名であったが、教室増設も含めて職員数は 14 名と補強された。講師数は30名前後で推移しており、増設分の非常勤スタッフが6名ほど増加している。当 NP0 で学生時代アルバイト講師を務めた者から正職員応募の連絡があり、若くて熱意のある人材を採用できた。社会人ボランティアの申出もあり参画してもらっている。

短期アウトカム1	指標	初期値／初期状態	目標値／目標状態	目標達成時期
わたしと僕の夢に在籍している子どもや卒業生（高校生）が様々な困難を抱えても、安心して帰って来られる居場所・相談場所を持続的に運営できている	①子ども各々の状況を総合的に把握し、組織的に子どもの課題に相談対応などできている。 ②子どもの QOL に関するアンケート（KINDL など）やヒアリングの結果	①入れ替わりの多い非常勤の講師、職員のみで子どもたち個々に対応しており、十分な相談対応ができていない。また卒業生来訪時に組織的対応ができない状態。 ②事前評価により子どもの QOL に関連する調査を行った。KINDL は実施できていない。	①個々の子どもの状況を把握し、講師・職員とともに組織的に対応し、個々の子どもの状況に合わせた相談対応などができるようになる。また、卒業生の来訪に組織的に対応できるようになる ②事前評価時よりも調査結果が改善している。KINDL にて健康群と同程度の結果となる。	2024 年 3 月

アウトカムの実績

①塾の卒業生（高校生）は事業開始前では月 10 名前後の来塾者数であったが、2023 年度には毎月述べ 100 名前後が来訪するまでになり、卒業生の来訪数が中学生の来訪数を上回る月もあるようになった。事業実施前（2020 年度）の卒業生の来塾数は延べ 128 人であったが、2023 年度（1 月時点）には 941 人となり、7.3 倍増加している。月 5～10 件前後の家庭やアルバイト等についての相談が継続的にある。相談対応可能な心理士などの専門職も雇用、担当スタッフは入れ替わりなく定着しており、また、個別の記録（カルテ）を残しており、専門的かつ組織的に対応できるようになっている。相談体制としては、専任の公認心理師、社会福祉士及び子どもと直接現場でかかわっている教室マネージャーが連携しており、必要に応じて社会福祉協議会、児童相談所、SSW、他の CSO 等と連携している。

②KINDL については技術的な課題から実施できなかったが、事前・中間・事後評価のタイミングで、通っている子ども達（小学生～高校生）全体に独自のアンケートを実施した。その結果、身体的・精神的健康、自尊感情、人間関係、学習や食事、将来像、塾の意義などについて、良好な回答が多かった。例えば、「自分が好き」という質問に対して、事前評価時は「あてはまる（「少しあてはまる」、「とてもあてはまる」）」が中学生で 33.3%（15 名中 5 名）、高校生で 41.7%（12 名中 5 名）であった。事後評価時には、中学生が 57.2%（14 名中 8 名）、高校生が 57.2%（23 名中 13 名）と割合が増加している。また、

「NPO で楽しいことは何ですか？」に対し、高校生では「友達」が 33.3%（21 名中 7 名）、「先生」が 33.3%（21 名中 7 名）、「居場所」が 19%（21 名中 4 名）であった。アンケート結果については添付資料 2 子どもに関わるアンケート調査の通り。

わたしと僕の夢が支援する子ども達は、元々食事が充分に取れていない、学習面の遅れがある、学校自体や友人関係になじめず不登校気味であったりと、さまざまな問題を抱えている状況で入塾する。本事業により、単なる居場所の提供から、食事面の充実、学習環境・相談体制の整備、各種体験プログラムの実施により、高校生を含め入塾した時の状況から、食事がきちんととれている（NPO での食事や食材の配布も含めて）、勉強のやり方（習い方）についての具体的希望があったり、学校や塾が楽しい、学校やこの居場所に以前よりちゃんと通えている、友達がいる、信頼できる大人がいる、自分が好きといった、肯定的な回答がアンケートによって明らかになった。ただ家庭における金銭的問題やネグレクト等の根本的問題が一挙に解決できている状況ではない。

短期アウトカム 1 の達成度

■ 目標値を上回っての達成（3 点） ■ 目標値通りの達成（2 点） ■ 目標値を概ね達成（1 点） ■ 目標値を達成できていない（0 点）

結果の要因と課題（アウトカムについての考察）

卒業生（高校生）の来塾数の増加は、まず本事業の開始により「帰って来ていいよ」と伝えることができたことが大きいと考える。本事業開始前まで、わたしと僕の夢では主に小学生・中学生を対象に塾（学習支援）と食支援を合わせた事業を久留米市の委託事業として実施してきた。学習支援の効果もあって、高校に入学できる子どもは増えていったが、高校入学後の卒業生の支援は十分にできていない状況だった。実際には、高校入学後もご飯が食べられていない、家庭環境に課題がある、学校に行けなくなっている、経済的に苦しいがアルバイトができない・続かないなどの課題を抱えていた。これらの課題は子ども達にとって大きな困難であり、孤立する要因となる。卒業生の来塾数の大幅な増加は、卒業生（高校生）にとっても居場所が必要であったというニーズの表れと考えられる。また、組織体制の整備や待遇の改善等により居場所スタッフ（先生）が定着し、高校生になっても信頼できる先生に会いに来れる（相談できる）こと、わたしと僕の夢でできた中学時代の友達と再会し、交流できることも「安心して帰って来られる居場所」になった大きな要因と考える。卒業生が帰ってくることにより、在籍生（小中学生）との縦の関係ができ、小中学生にとっては同じ境遇にある先輩の姿を見ることで、自分の将来を描きやすくなったという効果もあると考える。さらに卒業生にとっては後輩にアドバイスできる立場になることは自己肯定感の向上につながったと考えられる。実際にアンケートの中では「中学生に伝えたいことはなんですか？（自由記述）」に対して、「色々な勉強の仕方を周りに聞いたりして、吸収して効率よく勉強できるようにになれば、学習面に関しては伸びると思うし、生活面に関してはとにかく楽しむこと」や「自信さえ失わなければなんとかなる！」など後輩へのエールの言葉があった。わたしと僕の夢という居場所に来れば、お腹いっぱいご飯を食べることができ、親身に相談にのってくれる大人や勉強を教えてくれる先生がいて、同じ境遇で困難を抱えていて、気心の知れた友達や先輩・後輩と会うことができる。このような環境は、経済的困窮により困難を抱える子どもの QOL 改善に大きく影響すると考えられる。そのため、「わたしと僕の夢に在籍している子どもや卒業生（高校生）が様々な困難を抱えても、安心して帰って来られる居場所・相談場所を持続的に運営できている」は達成できていると考える。課題としては、増加した卒業生を本事業終了後も継続してサポートしていくための財源等をどのように確保するかがある。

②わたしと僕の夢の「体験・学習支援」についての活動、アウトプット、アウトカム

アウトプット 2	指標	初期値	目標値	達成時期
2-1. 学習支援の仕組みができている【達成度：○】	①学力向上のためのプログラムができている。	①学習支援は実施しているが、プログラムとしては確立していない	①学習プログラムが確立し、継続的に運営されている	2-1. 2023 年 3 月
2-2. 体験プログラムの仕組みができている【達成度：◎】	②非認知能力を向上するプログラムができている。	②体験イベントなどは実施しているが、プログラムとしては確立していない	②体験プログラムが確立し、継続的に運営されている	2-2. 2023 年 3 月
2-3. 進路などについての支援ができている【達成度：◎】	③進路についての相談対応回数、相談内容の記録	③個別では相談対応しているが、組織的な対応はできていない	③在籍する全ての子どもに対して相談対応ができており、その内容が記録されている	2-3. 2023 年 10 月
活動	1. 学習と居場所の分離、2. 塾生の学習能力診断、3. 個別学習プログラム、4. 専任講師、5. WiFi 環境及びオンライン学習の知識習得及び構築、6. 経験値を上げるためのイベント・教室の開催(身体/キャンプ・登山・スポーツ、ダンス、芸術/楽器・映画・お茶会・習い事等、英会話・国際交流)、7. 学習教材の整備、8. 協力企業へのアルバイト斡旋、9. 技能向上のためのプログラム(PC 技術、プログラミング、動画制作、パステル画講座など)、10. 資格取得のためのサポート、11. 地域企業との連携による講習、職場見学及び実習、12. 卒業生の就職斡旋(ex. キャリアリード等)、13. 学習スペースの拡大、14. 体験学習スペース(スタジオ)の設置、15. 学習形式の多角化(個別・WEB・訪問/ひきこもり)、16. フリースクールとの連携、17. 地域で子ども達の支援をしている団体・個人との連携、18. 進路相談、19. 卒業生の NPO 雇用、20. 入試のための支援			
アウトプットの実績				
①学習支援は子どもの能力や特性が様々であるため結果的に個別対応とし、講師会議等により情報共有を密にして、きめ細かい指導を行なっている。対応のポイントとしては、・初回面談前に支援員より学校名、学年、通学状況や学習面の不安などを聞く・本人との面談は基本的に保護者、本人、支援員、塾担当で行い、そこで保護者からの話、本人の受け答えの仕方、面談シートを書き込んでいく様子などを見て、どの程度サポートが必要なのかを考えている・初回の面談のみで帰る子に関しては比較的人見知りが多いので、1 階でも勉強できるということをやや強調している・面談後にそのまま塾に参加する子は、その子のキャラクターや性別を考慮し、さらに勉強したい教科を考えた講師選びをしている・初回は緊張している子が多いので、やわらかい印象の先生を付けることが多い・付いてもらう前に、学年・名前・通学状況や勉強のレベルを説明し、本人の希望(志望校、学力アップしたい等)を伝えている。 ②体験プログラムやイベントは引き続き継続的に実施し、特に最終年度は、事業の一環によるプロボノマッチングを行っていただいたことにより、より専門的で内容の濃い且つ子ども達に有益なプログラムが実施できた。事業開始前のイベント回数/参加人数は 8 回/184 人であったが、事業開始後は 11 回/268 人、18 回/329 人と増加している。2023 年度は 11 回/203 人(12 月まで) ③1、2 年生の相談内容は志望校選定、3 年生は私立校の選び方、成績と志望校のバランス等の相談が多くそれらに対応、高校生は、専門学校・大学・就職等の進路について、具体的には奨学金・エントリーシートの書き方・面接指導を行った。中学生の相談回数は年間 30~40 件で横這いに推移しているが、卒業生の相談回数が事業開始前はほぼ 0 だったが、月に 5~10 件寄せられるようになっている。				

短期アウトカム2	指標	初期値／初期状態	目標値／目標状態	目標達成時期
わたしと僕の夢に在籍している子ども達の非認知能力や学力が向上し、子ども若者が希望する進学や就職につながっている	①子どもの QOL に関するアンケートの非認知能力に関わる結果が改善しているか ②学力テストの点数、進学状況、就職状況	①事前評価にて一部非認知能力に関する調査を行った ②学力テストの点数、進学・就職の状況をまとめることができていない	①事前評価時よりも調査結果が改善している。 ②学力テストの結果が改善している。それぞれの子どもの希望にあった進学や就職をできている。	2024 年 3 月
アウトカムの実績				
①事業開始前のイベント回数/参加人数は 8 回/184 人であったが、事業開始後、2021 年度は 11 回/268 人参加、2022 年度は 18 回/329 人参加、2023 年度は 11 回/203 人（12 月まで）と増加している。学習支援だけでなく、楽器・絵画・イラスト・プログラミング・金融教室・旅行・キャンプ・社会奉仕活動・アミューズメント等多岐に渡るイベントやプログラムを提供し、興味や関心の対象を広げ、コミュニケーション力や自己肯定感の向上に寄与し、それが例えば各自の高校進学を選択にもいい影響を与えている。具体的には、本事業が始まってからは卒業生限定のイベントを実施できたため、卒業生同士が疎遠にならず、お互いの近況を知ることができた。卒業生同士の結束も固くなったので、今年度初挑戦の軽音部の活動も始めることができ、「3over」というバンドが誕生した。上手く行かないことも多いようだが、在籍生の卒業をお祝いする会で、生演奏するなど活躍している。卒業生の参加数が多くなったので、リーダーとなり引っ張ってくれる先輩がいるだけで中学生も心強かった様子。卒業生がわたしと僕の夢で食支援のアルバイトもできるようになっており、働く場にもなっている。東和会議（子ども会議）や職業体験、料理対決など自分たちで考えて行動するイベントでは、子ども達が率先して意見を言ったり活動する姿が見られ、頼もしい一面を知ることができた。自分で考える力は進路を考える時にも役立ち、自分で考えて自分の意見を言うことができるようになった。アンケート結果から非認知能力の変化を測ることは難しかったが、スタッフの参与観察から、体験プログラムや部活動などで、意欲、協調性、粘り強さ、計画性、コミュニケーション能力などの非認知能力が向上したと考えられる。 ②中学 1、2 年生の相談内容は志望校選定、3 年生は私立校の選び方、成績と志望校のバランス等の相談が多くそれらに対応した。高校生は、専門学校・大学・就職等の進路について、具体的には奨学金・エントリーシートの書き方・面接指導を行った。居場所スペースと分離することで、学習室の整備を行い、子どもへの個別対応を強化したことにより、学習意欲が高まり、すべてではないが学力の向上があり、公立高校への進学の増加や、より上位校への入学者が出てきている。卒業生（高校生）についても希望の大学への合格を果たし、わたしと僕の夢に講師として戻ってくる人材が出てきた。				
短期アウトカム2の達成度	■ 目標値を上回っての達成（3 点） ■ 目標値通りの達成（2 点） ■ 目標値を概ね達成（1 点） ■ 目標値を達成できていない（0 点）			
結果の要因と課題（アウトカムについての考察）				

アンケートなどで子ども達の声をもとに、体験プログラム・イベントを組むことで、意欲を引き出し、積極的な参加のある取り組みができたと考えられる。PC やインターネットに興味を持っている子どもにはパソコンに触れられる環境を整備し、音楽をやりたいという意見をもとに、音楽室を設け、楽器も寄付等で募ることでバンドを組めるようにまでなった。その様子を見ている子ども達の興味は広がり、自分もやってみたいという気持ちを引き出したと考えられる。様々なプログラムの中で、子ども達同士で考え、意見を出し合い、計画を立て、実行するという過程の中で積極性、協調性、計画性が養われたと考えられる。また、体験プログラムを通して、居場所スタッフ以外の大人と触れる機会も増え、大人とコミュニケーションを取る機会は同年代の子ども達よりも多く、わたしと僕の夢に通う子ども達のソーシャル・キャピタル（人間関係資本）が増えたとも考えられる。また、その大人との出会いからロールモデルとなる存在に出会う機会も増えている可能性がある。

学力面については、事業当初は共通の学習プログラムを策定することで、学力の向上を図ろうとしていたが、子ども一人一人の個性が強く、また、アンケート結果から「宿題を教えて欲しい」、「分からないところを教えて欲しい」などの声から個別対応を重視した背景がある。講師陣も充実させることで、子どもに合った先生をつけられるように配慮されている。また、部屋を壁で仕切ることでハード面を整備、居場所スペースと学習室を分離したことで、学習に集中できる環境が整った。勉強する人が増えると今までしていなかった子どもも勉強し始めるという好循環も生まれたと考える。わたしと夢を卒業した子どもが大学生になり、講師となり戻ってくると言う事象は、子ども達にとっては困難を乗り越え成長している先輩の姿を間近で見ることになる。また、この事象は恩返し of the 循環の表れかも知れず、将来、団体を支える人材の確保にもつながる可能性がある。

本来は、経済的困窮により孤立してしまう可能性が高い子ども達が、わたしと僕の夢でたくさんの人と出会い、成長し、希望する進路を選択できるようになっていると考える。そのため、「わたしと僕の夢に在籍している子ども達の非認知能力や学力が向上し、子ども若者が希望する進学や就職につながっている。」は達成できていると考える。

③わたしと僕の夢の「組織基盤強化」についての活動、アウトプット、アウトカム

アウトプット3	指標	初期値	目標値	達成時期
3-1. ファンドレイジングの仕組みを強化する 【達成度：◎】	①寄付者の数や寄付額、マンスリーサポーター数、クラウドファンディングの成功数と資金調達額、助成金・補助金の採択数と金額、収益事業の収益額	①まだ寄付についての分析が実施できていない	①寄付、助成金等の既存の収入源の増額と新たな収入源を獲得できている	3-1. 2023 年 3 月
3-2. 組織評価・診断を受けている【達成度：○】	②第三者からの組織評価・診断を受けている。また、認定 NPO を取得している	②組織評価、診断を受けていない。認定 NPO を申請予定	②評価認証を受けている。認定 NPO を取得している。	3-2. 2022 年 10 月
3-3. 団体の情報発信・広報ができている【達成度：○】	③ニュースレターの発行数や頻度、SNS での発信数	③1 回目のニュースレターを発行予定。Facebook、Instagram にて週に 1 回以上、発信できている	③ニュースレターを定期的に発行できている。SNS の発信を週に 1 回以上行っている。	3-2. 2022 年 10 月

活動	1. マンスリーサポーターづくり、2. ファンドレイジングの手法を資金分配団体より研修指導をうける、3. 認定 NPO の取得について専門家に依頼、4. クラウドファンディングの研究と活用(広報及び資金集め)、5. SNS・ニュースレター・新聞・TV 等による広報活動、6. クラウドファンディングの研究と活用(恒久化)、7. ファンドレイジング計画(具体策)の実施、8. 認定 NPO の取得、9. 非営利組織評価センターの認証取得に関わる活動、10. 広報(ファンドレイジング兼務)担当者の確保、育成、11. 公式ホームページのリニューアル、内容の充実、12. コングラントの活用、13. 助成金・補助金の申請、14. 行政委託事業の獲得のための活動			
アウトプットの実績				
①寄付金は事業開始前の 376 万円/ 125 件から 2022 年度は 1,026 万円/227 件と着実に増加した。認定 NPO の取得とクラウドファンディングの継続的实施が寄与している。マンスリーサポーターは 2 件から 12 件と増加。クラウドファンディングは計 4 回実施、2021 年 8 月「システムキッチン/目標 100 万円/実績 136.3 万円/支援者 132 人」、2022 年 1 月「制服/150 万円/173.9 万円/174 人」、2022 年 1 月「教室増設/150 万円/78.9 万円/66 人」、2023 年 11 月「小国英数塾/150 万円 157.7 万円/68 名」。ふるさと納税は 12 月末現在で 12.4 万円。 ②2023 年度にベーシックガバナンスチェックを受けるための自己チェックを行い最初の評価を受けたが、当初評価対象外とされていた総会議事録(2023 年分)の提出を求められた。理由は監事再任の記述のある議事録を確認するためとのこと。提出することにて「1. 法令または定款に則り、代表者および役員(理事 3 人以上、監事 1 人以上)を選任している。」のチェック項目をクリアした。これにより全ての項目をクリアした。また最初の評価時に於いて、JCNE からグッドガバナンス認定に移行する事を推奨されており今後、自己チェックによるガバナンスの維持、新たな視点を取り入れた更なる信頼性・透明性の向上に努めていく。 ③「<u>ニュースレター</u>」の事業前の発行部数と回数は、約 100 部/1 回のみ、事業後は 3340 部/18 回/平均 186 部の発行で、事業内容がよくわかるとの声もいただいております。寄付金増加にもつながっていると思われる。基本 2 か月に 1 回発行だが、活動報告書作成に時間がかかり、今年度はニュースレターの発行が滞った。 (2023 年度) ・ 4 月 No17-200 部: 3 月までの内容のため「卒業」メイン。実施したイベントや卒業祝いお食事会など ・ 10 月 No18-230 部: 夏休みを挟んだため、夏休み中のイベント中心の内容。代表あいさつの部分を理事挨拶へ変更 ・ 12 月 No19-230 部: ふるさと納税のチラシがメイン、クリスマスプレゼントのお願いとクラウドファンディングのチラシも同封。次回は 3 月頃発行予定。 「活動報告書」 9 月-300 部:2022 年度の活動内容。各事業の取り組み内容や現状、1 年間のイベント、子ども達の現状、休眠預金事業報告、決算、ご支援いただいた方々のご紹介、寄付のお願いなど。 活動報告書を読んだ支援者様にご寄付をしてくださったりしており、一定の効果がある。 片手間に行っていた広報について「SNS」広報担当者を置き、Instagram(FACEBOOK と連携)を中心にほぼ毎日発信、insta のリーチ数(年)は事業開始時の 358 から 2,460 へと、6.78 倍、Facebook は 909 から 3,168 と 3.49 倍に増加し、各教室における子ども達の活動と支援の様子を丁寧にリアルに発信し、活動内容が良く解るとの評価をいただいている。				
短期アウトカム 3	指標	初期値／初期状態	目標値／目標状態	目標達成時期

わたしと僕の夢の組織基盤強化を図り、持続可能な事業運営をできている	①安定的な資金調達ができているか（財務状況の確認） ②事業運営に必要な人材が充足しているか	①現在の事業収益では事業拡大または委託金なしでの運営は難しい ②限られた人員で事業運営や子どもたちのケア・サポートをしている	①ファンドレイジングの仕組みが確立し、団体の経済的自立が達成されている ②事業運営、子どもたちのケア・サポートに関わる人材が充足している	2024年3月
短期アウトカム3の実績				
①事業開始前 2020 年度の経常収益は 2,469 万円（内訳：事業収益（委託事業）80%、受取寄付 16%、受取助成金 4%）で、2023 年度の見込み額は 6,949 万円（内訳：事業収益（委託事業）54%、受取寄付金 23%、受取助成金 23%）となり、2.8 倍増加している。寄付金については、事業開始前 2020 年度の 376 万円から 2023 年度は 1,598 万円と 4.3 倍増加している。事業期間中にクラウドファンディングを計 4 回実施、第一回目は 2021 年 8 月「システムキッチン/目標 100 万円/実績 136.3 万円/支援者 132 人」、第 2 回目は 2022 年 1 月「制服/150 万円/173.9 万円/174 人」、第 3 回目は 2022 年 1 月「教室増設/150 万円/78.9 万円/66 人」、第 4 回目は 2023 年 11 月「小国町英数塾/150 万円 157.7 万円/68 名」で、合計 440 人から 546.8 万円の支援があった。 クラウドファンディングの実施は恒常化し、継続的挑戦を行うようになっている。事業や組織の認知が拡大し寄付金の増加や、大口の寄付金も増加している。法人寄付は事業開始前 2020 年度の 12 件 2,143,521 円から 29 件 9,966,418 円と 4.6 倍増である。また、民間・行政を含め多様な助成金や委託金を継続的に採択されるようになっている。 具体的には委託事業について、本事業開始前から実施していた 2 つの事業の他に 1 つの新規事業 1,000 万円、重層的支援事業 548 万円が増加、受取助成金は、事業開始前の 90 万円から約 1,500 万円に 16.6 倍増と大幅に拡大している。 ②本事業期間中に、理事会が理事 6 名（代表理事 2 名）監事 1 名から、連携企業経営者や専門家を含む理事 13 名（代表理事 1 名副代表理事 2 名）、監事 1 名に大幅に強化された。新たな 3 教室が増設され、合計 6 教室となり、組織全体としての職員数は事業開始時の 5 名から 14 名と大幅に増員されている。また、公認心理師・社会福祉士の資格を持つ専門家や以前アルバイト講師であった人材を教室担当正職員として採用でき、講師→正職員と言う理想的な流れもつくることができた。講師陣は約 30 名おり、個別学習のサポートも充実している。				
短期アウトカム3の達成度	■ 目標値を上回っての達成（3 点） ■ 目標値通りの達成（2 点） ■ 目標値を概ね達成（1 点） ■ 目標値を達成できていない（0 点）			

結果の要因と課題（アウトカムについての考察）

事業開始前と比べ、委託事業の割合が26%低下し、寄付金が7%増加、受取助成金が19%増加しており、財源の多様性が改善している。委託事業に頼らない財源になってきていると考える。寄付金増加の要因としては、子どもの受け入れ数やサポートの質の向上など事業自体が成長し、それをSNSやニュースレターなどで発信することで共感を得やすくなったこと、クラウドファンディングの実施により組織がファンドレイジング体質に変化したことや新規支援者を多数獲得したこと、コングラントを導入し寄付者管理の仕組みが整備されたこと、そして、組織体制がしっかりとしたことで代表理事が渉外に注力できるようになり、法人寄付などの大口寄付が増加したことなどが考えられる。受取助成金の増加は、休眠預金活用事業の実施により事業設計の立て方や事業計画書を作成する能力が向上したこと、事業責任者以外も助成金申請書を作成できるようになったことなどが影響していると考えられる。

理事会が再編され、機能強化されたのは本事業を実施する中で、理事・監事にどのような人になってもらうべきかが明確になっていったためと考える。現場スタッフの安定化と増員は、これまで委託事業で仕様書にある活動をしていたところから、休眠預金活用事業での新しい取り組みの実施とそこで培ったノウハウの他地域への展開などでやりがいを感じやすくなったことが影響していると考えられる。課題としては、本助成金がなくなった後に、増えた子ども達にどのように対応するのか、事業中に拡大した拠点と職員の増加に合わせた財源の確保を持続可能にすることと考える。

④みんなの家みんなの「居場所」についての活動、アウトプット、アウトカム

アウトプット4	指標	初期値	目標値	達成時期
4-1. 居場所となる「仮みんな」を整備する【達成度：○】 4-2. 居場所となる「みんな」をつくる【達成度：○】 4-3. みんな(仮みんな)が子ども若者の居場所として活用されている【達成度：○】 4-4. みんな対象者や関係者からの相談などを受けている【達成度：○】	4-1. ①施工完了の確認 ②関係者による感想による評価 ③使用実績 4-2. ① 設計に必要な情報の取りまとめ ② 設計計画と進捗管理シート 4-3. ①滞在実績として、期間と人数の把握 4-4. ①相談実績	4-1. ① トイレ：汲み取り式 ② お風呂：扉なし、タイル張りが劣化 ③廊下：腐食によるたわみ ④ 居間：光が入りにくく暗い。冬季の暖房設備なし。 ⑤ 集い場：床をはがして、土砂出した状態 4-2. ① 土地確保済み ② 崩壊寸前の旧民家がある ③ 災害復旧工事により土地の排水対策が求められる 4-3. ①対象となる滞在者なし 4-4. ① オリジナル自己評価シートを作成する。交換日記のような形で、普段から気づいたことを書く習慣を作るところから始める。別途、みんなを巣立つ際に、自己評価シートを作る	1-1. ① トイレ：浄化槽設置、水洗化 ②お風呂：簡易的な扉設置、床の改修 ③廊下：床板の張替え ④居間：南側の壁に明り取りの窓、薪ストーブの設置。 ⑤集い場：腐食した合板の壁などを取り除き、落ち着きのある和の空間にする。 1-2. 旧民家を解体し、土地の排水対策を行ったうえで整地、建築を行う。 1-3. 1 名以上の滞在実績がある 1-4. 相談を受けた実績が確認できるよう、件数や内容について記録が残されている。	1-1. 2021 年 7 月頃 1-2. 2024/3/1 1-3. 2023/3/1 1-4. ~随時

活動	1. トイレの改修: 汲み取り式を、水洗化、2. お風呂の改修: 扉の設置、床の改修、3. 廊下の改修: 床板の張替え、4. 居間の改修: 明り取りの壁改修、薪ストーブの設置、5. お風呂の改修: 扉の設置、床の改修、6. 集いの場改修: 壁、床の改修、囲炉裏の設置、土間の打ち直し、薪ストーブの設置、手洗い場づくり、扉の色塗り、7. 対象者・滞在者の意見集約まとめ、8. 仮みんかの企画・設計、9. 旧民家解体、10. 整地、11. 仮みんか建築、12. ワークショップの開催 1. 仮みんかの説明資料（リーフレット）の作成、2. イメージ映像の作成、3. ホームページの作成、4. ニュースレター作成、5. 公式ホームページの内容の充実、6. SNS（Twitter、LINE、Facebook）による対象者との直接的な接点づくり、7. 近隣の児童養護施設訪問の実施（四半期に1回）、8. 関係団体・専門家との連携、9. 夜回り活動への参加、10. 仮みんかに関する問い合わせや対象者への訪問による相談および面談（オンライン含む）、11. 滞在後のアフターフォロー
アウトプットの実績	
4-1. ①～⑤ 仮みんかの改修完了、老朽化などにより一部追加補修が必要であったが、2021年12月に仮みんかの改修が完了した。 4-2. 2022年7月、旧民家の解体が完了。2023年6月に整地を開始し、古材の引き渡しを終え、8月に着工した。9月に上棟式を行い、地区内外から100名以上の方に祝っていただいた。1月末に浄化槽の工事を開始する予定であり、3月引き渡しを予定通りに進んでいる。 4-3. 事業期間中、6名が滞在（一日から三ヶ月）。一人ひとりの滞在時に最低限の個人情報を可能な限りカルテに記録し、滞在中の行動、悩み、相談、状態の変化を記録して保管している。施設退所者に限らず、子どもから大人、地域の人々が気軽に立ち寄る場となっており、2024年2月末時点で全体の関係人口は約9,000人となった（延べ人数合計8,974名、対象者235名、宿泊381名（対象者日数144名）、来客1,070名）。 4-4. ①相談実績46件（滞在者6名、支援者3名、SNS18名、その他4名とやり取り）。可能な限り相談内容を記録して保管している。内容としては、お金（5件）、コミュニケーション（14件）、生活（5件）、仕事（3件）、居場所（4件）、異性（3件）、親・兄弟（5件）、病気（4件）、トラブル対応（3件）など。②広報誌「みんか通信」を年4回発行し、現在9号まで発行している。関係者26名/団体へ郵送し、みんか訪問者やご縁のあった方々に手渡しで活動紹介を行っている。アーカイブ：https://37minka.com/みんか通信③HPを開設し、2022年7月にはみんか公式LINEを、9月にはX（Twitter）アカウントを作成し、対象となる若者が直接アクセスできる機会を構築した。Xでは、339名のフォロワーと匿名で継続的にやり取りしている18名とのつながりを持っている。悩みを抱える若者にみんかという場所の紹介や考え方を伝え、「みんかに行ってみたい」「そんな場所で一緒に仕事してみたい」「動けるようになったら行きたい」「休みに行ってみたい」など、興味を持ってくれる声が多い。その後も、時々声をかけながら、状態を確認している。福岡県で若者の相談窓口として活動している特定非営利活動法人そだちの樹からの相談も5件あり、そのうち2名が滞在に繋がっている。対象の若者の滞在後の状況なども情報交換できる関係を構築している。 4-5. 滞在後、「滞在アンケート」に協力してもらい、その記録を保持している。「来てよかった」との感想が多く、感じたことや自身の変化については、滞在の長さや個人の抱える問題により異なる。1～3泊の体験宿泊では、まずはゆっくり過ごし、みんかの生活を体験し、非日常を新たな体験として受け止めている。みんかでの滞在そのものは居心地がよかったが、3週間滞在しても本人の意向や本質的な課題の共有には至らなかった。一方、3ヶ月滞在した若者は	

滞在から 1 ヶ月で自ら仕事を探し、働き始めることができた。辛くて何もできない状態から想定よりも早い段階で日常生活に変化が見られた。本人の目的意識に寄り添いながら接することで支えになれたと思われる。6 名の滞在中、5 名はその後も直接連絡が取れており、不定期ながら近況をやり取りしている。1 名は紹介者経由で状況把握ができています。また、一人の子は、みんなを社会的養護経験者の多くに知ってもらいたいと支援サイトへの掲載を提案し、みんなとの出会いを一つのきっかけに応援してくれていると感じている。

短期アウトカム 4	指標	初期値／初期状態	目標値／目標状態	目標達成時期
4. 若者がみんなに滞在することで、自分と向き合う時間を持ち、様々な人や物事と出会う中で、自分の生き方をみつけるきっかけができています 【仮みんな】 ・若者を受け入れられる空間として生活環境を整える ・地域内外の人と交流ができる空間を整備する 【みんな】 ・若者 8 人ほどが共同生活できる家を建設する ・生活スキルを身につけられるよう、自活できる設備環境を整備する	①仮みんな改修の計画作成と進捗管理 ②みんな建設の計画作成と進捗管理 ③滞在実績として、期間と人数の把握 ④滞在者自身による自己評価（記述式） ⑤滞在者の客観的評価（記述式）	①仮みんな：開設するにあたり、最低限度住める状態までにはなっているが、若者が住むにはトイレ、お風呂、廊下、居間、寝室など、改修すべき点がある ②みんな みんな建設地は、確定しているが、倒壊しそうな旧家屋があり、敷地の排水など、準備が必要。 ③滞在者はいない ④オリジナル自己評価シートを作成する。交換日記のような形で、普段から気づいたことを書く習慣を作るところから始める。別途、みんなを巣立つ際に、自己評価シートを作る。 ⑤滞在者と関わる人から意見を記録できるシートを作成。	①仮みんな：改修計画に基づく完了 ②みんな：設計に基づく建築完了 ③常時 1 名以上の滞在者がいる ④⑤短期長期に関わらず、みんなに滞在した若者が、自分自身を見つめなおし、将来の目標設定ができるようになっている	① 仮みんな改修 2021 年 7 月予定 ② みんな建築 2024 年 3 月予定 ③2022 年 3 月 ④⑤2023 年 3 月

短期アウトカム 4 の実績

【仮みんな】

①2021 年 10 月、中山間地域で自然豊かな環境にある古民家を改修し、仮みんなとして整備が完了。若者にとっても滞在が心地よい空間となるよう、トイレなどの水回りを水洗化、里山だからこそ実現できる薪ストーブの導入で、精神的に癒され、ゆっくりできる空間づくりをハード面の整備として実施。オーブンテラスでは、気軽に飲食ができ、いつでもアウトドア感覚が得られ、地域の人々とも交流できる憩いのスペースとして整えた。人それぞれ、自分のくつろぎの場所が得られるようになった。

【みんか】

②若者が滞在できる家として「みんか」を建設中（2024 年 4 月引き渡し予定、建築費用は休眠預金以外の財源を独自に確保）。資材高騰などの影響から設計を一部見直し、ロフト型の 2 階に個室で 5 名程度が滞在できるスペースを作っている。1 階部分は窓が大きく、開放的な空間となっており、地域住民との交流も生まれやすい環境となっている。

また、周辺の自然資源として、当初から田 2 反（600 坪）、畑 2 反を確保し、お米作りや自家用野菜の栽培などを行ってきた。みんかの事業を開始する前に九州北部合が発生、多くの方が、農業をあきらめている。現在、災害復旧した農地の新たな担い手として、約田 1 町（3,000 坪）、約畑 1 町を確保予定（田畑の確保のために休眠預金は活用していない）。耕作者不在の農地を管理・活用する計画を立てている。また、知人からトラクターや田植え機、コンバイン、耕運機を譲り受けることができ、機材も揃っており、滞在した若者が農業などに従事できる環境整備ができています。

③事業期間中 6 名が滞在（期間は 1 日～3 ヶ月）。一人ひとりの滞在時に最低限の個人情報可能な限りカルテにしている。また、滞在中の行動の様子、悩みや相談、状態の変化を記録して保管している。相談実績は 46 件（滞在者 6 名、支援者 3 名、SNS18 名、その他 4 名とやり取り）可能な限り、相談内容の記録を保管している。内容としては、お金（5 件）、コミュニケーション（14 件）、生活（5 件）、仕事（3 件）、居場所（4 件）、異性（3 件）、親・兄弟（5 件）、病気（4 件）、トラブル対応（3 件）など若者が多様な悩みを抱えていることが明らかになった。若者との接点は SNS（X）やアフターケアを行う他の NP0 からの紹介などであった。就労と生活環境を確保することが基本的自立という施設の考え方から、児童養護施設からの直接的な紹介が難しいことが分かった。また、対象の若者に限らず、子どもから大人、地域の人などが気軽に立ち寄ってくれる場となっており、2024 年 2 月末時点で、全体的な関係人口も約 9,000 人となった。（延べ人数合計 8,974/内対象者 235/宿泊 381（内対象者日数 144）/来客 1,070）。

④滞在者との関わりについては、まず環境になれること、信頼関係づくりが優先されるため、交換日記のようなことを行うには一定の時間が必要。また、文字に表現することが難しいととらえている子もいるため、普段の会話を大事にした。一週間未満の短期滞在の子たちは、それぞれの時間を過ごしながらか、薪割や農作業、お風呂を沸かしたりと普段の生活とは異なる非日常体験を楽しんだ。空間に慣れてくると表情も明るくなり、言葉の数も増えてきた。「ゆっくりできた」、「初めての体験ができてうれしかった」など、気分転換の機会となった。3 週間滞在した子は、当初から積極的に手伝いをしてくれたり、みんかの生活に関わってくれた。周囲の人とも関わる中で、自身が置かれている環境やこれまで関わった人たちとの人間関係との違いを感じ取った様子であった。みんかを離れる際には、自身が抱える現実の問題に不安を感じていましたが、それに向き合う意思を示してくれた。3 ヶ月滞在した子は、一人暮らしが精神的にも辛くなり、休みたいと、最初は無気力な状態であった。身の回りのことも、「しなくてはならないとわかっているけど、できない」という状況だったが、徐々に、表情も明るくなり、相談事も増え、一つひとつ一緒に考えることができるようになった。滞在から 1 か月ほどで、働く意欲も出てきて、自身で仕事を探し、みんかから週 3～5 日間で働きに行けるようになった。人それぞれ、抱えている課題やペースが異なるため、個別性を大事にしながら、それぞれのタイミングに寄り添い関わっていくことが重要とわかった。

⑤地域の人にとっては、滞在者との関りが短時間・限定的であり、関係者からの意見聴取を行っても、現時点では「わからない（評価できない）」、という意見が多かった。ある程度の長期滞在者になれば、交流する場や関わり方も増え、滞在者に対する意見や評価が得られるものと推測する。地域の方と関わった対象者は、最初は緊張気味だったが、地域の皆さんは、自然に受け入れてくれることもあり、すぐに表情も落ち着き、過ごすことができているように感じた。本人もその時間を楽しめたようで、「みんな人がいい」、「優しい人が多い」という印象を話してくれた。

短期アウトカム4の達成度

■ 目標値を上回っての達成（3点） ■ 目標値通りの達成（2点） ■ 目標値を概ね達成（1点） ■ 目標値を達成できていない（0点）

結果の要因と課題（アウトカムについての考察）

みんなの家みんかは、本事業により拠点づくりを1からスタートしたため、まずは社会的に孤立した若者を受け入れるためのハード面、ソフト面の整備に注力した。若者が、いつでも帰って来て、滞在できる場所として「仮みんかの改修」、「みんかの建設」によりハード面を整え、自然の中でゆっくり休み、心身を癒す環境ができたと考える。ソフト面においては、事業実施の過程で、多様な背景をもった若者を受け入れるための知識や経験をスタッフが積みながら、一人一人に寄り添い伴走型で支援をすること、社会的養護の専門家やアフターケアのNPOと連携すること、必要情報をカルテとして残すことなどを整え、若者をいつでも受け入れられる体制作りができたと考える。「常時1名以上の滞在者がいる」という目標値は達成できなかったが、滞在した若者の中にはみんかに関わる人々と交流する中で、自身の人間関係について考える機会ができたり、滞在から就労にまで結びついた若者がいたりと一人一人にきっかけや変化をもたらしたと考える。また、みんかは既存の制度としてある自立援助ホームなどとは違い、年齢制限はなく、望めば無期限で滞在する（暮らす）ことができるため、若者にとって気軽に「いつでも帰って来られる場所」、「ただいまと言える場所」になっていると考える。SNS（X）上でも若者と繋がり、実際に滞在したことはなくとも、何かあればいつでも受け入れてくれるみんかという場所があることは若者の安心につながっている可能性がある。過去に滞在した若者とも繋がり、フォローアップできる状態であるため、みんかの存在が孤立を防ぐ一助になっていると考える。

本事業により、若者を受け入れるための環境整備はできたため、今後、中長期滞在者を含め若者の受け入れ数を増やすことで「若者がみんかに滞在することで、自分と向き合う時間を持ち、様々な人や物事と出会う中で、自分の生き方をみつけるきっかけができていく」を実現できると考える。課題としては、みんかを維持する財源をいかに確保するかである。

⑤みんなの家みんなの「地域との関わり」についての活動、アウトプット、アウトカム

アウトプット5	指標	初期値	目標値	達成時期
5-1. みんなの家みんなに滞在する若者の地域行事への参加、地域の人的課題に対する活動（道路愛護、美化活動、空き地の維持、景観保全活動など）や農作業支援などに積極的に取り組んでいる 【達成度：△】	①地域行事への参加実績報告 ②地域貢献事業実績報告 ③地区住民からの意見、反応	①参加記録シートを作成 ②活動内容の記録シートを作成 ③地区住民へのヒアリングシートを作成	短期長期に関わらず、みんなに滞在した若者が、地域住民、外部からの訪問者などに関わりながら、地区の人に感謝される行動を自発的にできるようになる	～2023/10
活動	1. 地域年間行事への参加(祭りごと、ゴミ収集、道路愛護活動など)、2. 環境整備のための草刈り、3. たかき穂多留市(野菜直売活動)への参加、4. 空き農地の管理、河川清掃、5. 放置竹林整備、6. 高齢者住宅巡回および生活支援、7. アンケート・ヒアリングシートの作成			
アウトプットの実績				
①それぞれの価値観や状態を見ながら、地域活動への参加を促したところ、ゴミ拾い活動（1回1名）、集落行事（1回1名）、畑整備作業（1回1名）へ参加できた。地域の皆さんにも温かく受け入れていただき交流の場を作ることができた。また、そのほか、みんなでのイベントサマーキャンプ（1回1名）、子どもキャンプ（1回1名）の場にも参加し、地区外の方との交流を行うことができ、人との関りの場を楽しむことができたようだ。 ②毎月の活動記録、関係人口の人数などを記録し、関係者と共有・保管している。2024年2月末時点で、全体的な関係人口も約9,000人となった。（延べ人数合計8,974/地元3,016/ボラ637/役所他416/親子1,211/その他3,293/来客1,070） 地域住民8名に対する「近隣地域住民ヒアリングシート」では、住民のほとんどが高齢者であり、若者との関わりが本人の状態や意向などにより限定的であったため、「よくわからない」という回答が8人中6名。ただし、地域行事などで一緒に接点を持つ人からは、「若い人がくると地域にとってもよい」といった好意的な意見もある。対象者の気持ちによるが、関わる時間が増えれば、もっといろいろな意見が得られると思われる。一方で、経済的な運営面などを心配いただく意見もある。				
短期アウトカム5	指標	初期値／初期状態	目標値／目標状態	目標達成時期
みんなに滞在する若者が、高木地区の人と関わることで、生活支援・行事などの支援を通して、地域社会へ貢献する	① 地域行事への参加実績報告 ② 地域貢献事業実績報告 ③ 地区住民へのアンケート	① 参加記録シートを作成 ② 活動内容の記録シートを作成 ③地区住民へのヒアリングシートを作成	短期長期に関わらず、みんなに滞在した若者が、地域住民、外部からの訪問者などに関わりながら、地区の人に感謝される行	2024年3月まで

			動を自発的にできるようになる。	
短期アウトカム5の実績（アウトカムについての考察）				
滞在した若者のそれぞれの状態を見ながら、地域活動への参加を促したところ、ゴミ拾い活動（1回1名）、集落行事（1回1名）、畑整備作業（1回1名）へ参加できた。地域の皆さんにも温かく受け入れていただき交流の場を作ることができた。また、そのほか、みんかでのサマーキャンプ（1回1名）、子どもキャンプ（1回1名）の場にも参加し、地区外の方との交流を行うことができ、人との関りの場を楽しむことができた。地域活動では、積極的に作業してくれ、地域住民から声をかけられると安心したのか自分から話をしたりしていた。近隣住民やみんか来訪者との食事会・イベントに参加した際は、意気投合した方と話が盛り上がっている場面もあり、楽しんで過ごしている様子であった。機会は限られていたが、地域活用や手伝いなどを行ってくれたことに対して、地域の方から直接「手伝ってくれて（参加してくれて）ありがとう」、「助かった」との声をいただき、滞在した若者が喜んでいた。 また、みんかの事業を地域の方々に理解してもらうため、地区内外の人への説明会を事業開始時に地区の役員会へ1回、民生委員会1回、集落1回、中間報告会1回を実施した。近隣の方は、行事への参加も快く受け入れしてくれており、交流に協力していただいている。当初、民生委員の方からは、「いいことだけど、そんなに簡単なことじゃない。」「若者の人生に責任が持てるの」といった、厳しい意見もあったが、話をする中で理解いただき見守ってもらえるようになった。また、その後の中間報告の説明会の中では、「高齢化している中で、若者がいるということは喜ばしい事」「若者にとっても、地域にとってもいいこと」一方で、「地域の人、特に近隣の人とトラブルがないように、注意してくれたらいい」「（休眠預金活用事業）の補助金が終わってからの財源が心配」との声もあった。また、地区のコミュニティセンターには、みんか通信を置かせてもらい、地域の方々に事業の進捗を知ってもらうきっかけとなっている。				
短期アウトカム5の達成度	■ 目標値を上回っての達成（3点） ■ 目標値通りの達成（2点） ■ 目標値を概ね達成（1点） ■ 目標値を達成できていない（0点）			
結果の要因と課題（アウトカムについての考察）				
滞在者により、それぞれの個性はあると思うが、滞在期間や頻度が増えることで、地区住民との関りは増え、人間関係も構築でき、それに伴い、評価も得られると考えられる。ただ、そのためには、個々の対象者に応じたある程度の時間が必要であることが分かった。また、SNS で関わっている若者や実際の滞在者の様子を見てみると、現時点においては、長期的な滞在よりも、一時的な休息のためのみんかの利用が主となりそうである。みんかの目的は「いつでも帰ることができる家」であるため、短期滞在であっても、つながること、みんかを体感することであり、その目的は果たすことができる。さらに、今後、滞在した若者のなかに、移住を含めた長期滞在の若者が現れる可能性はあると考える。 地域住民へのアンケートやヒアリングの結果から、「高齢者ばかりの土地に若い人がきてくれたら嬉しい」、「農作業が大変で若い人の力が必要」などの声があり、過疎化が進み、農業や地域行事の担い手がいない対象地域において、若者が来ることを好意的に受け止めてくれる方は確実にいる。今後、自然が好きで、農業をやってみたいと思う若者が中長期的に滞在できれば、地域住民、農家さんとの繋がりができ、地域の担い手となる可能性は高いと考える。そのため、今後、本事業で実施してきたことを継続できれば、「みんかに滞在する若者が、高木地区の人と関わることで、生活支援・行事などの支援を通して、地域社会へ貢献する」につながっていくと考える。				

⑥みんなの家みんなの「組織基盤強化」についての活動、アウトプット、アウトカム

アウトプット6	指標	初期値	目標値	達成時期
6-1. みんなの事業を継続させるための人づくり、組織づくり、仕事づくりを行っている【達成度：△】	①適格者の発掘と育成 ②法人化検討会議の開催 ③収益事業の進捗	① 事業主体者（主に2名） ② 法人化の必要性について意見書づくり ③ 収益事業の種が複数できている	①事業主体者 5 名、および中心的な協力者 10 名体制とする ②協議内容をまとめた会議記録づくり、または法人化。 ③財務状態を支える収益事業が運営されている	～2023/10
活動	1. みんな事業運営関係者との対話、2. みんな利用者との対話、3. 事業対象者との対話、4. 年に3回、法人化に向けた協議を行い、記録を保存する、5. 法人化の手続きを行い、法人として設立する、6. 理事メンバーの確保、7. 理事会の運営、8. 事務局メンバーの確保、9. 規定類の整備と適切な運用、10. 会計処理の適切な実施、11. 財務諸表の作成と公表、12. 協力者（ボランティア）の確保、増員、13. 収益事業の事業化（仕事づくり）、14. 専門家（税理士、会計士等）、商工会との連携、15. 助成金の申請			
アウトプットの実績				
① 事業主体者：理事3名、監事1名。事業主体2名、サポーター3名、その他必要に応じた協力者は10名以上。 ②2022 年1月から、ちくご川コミュニティ財団と法人化に向けた検討を開始。2 月、3 月と、将来の活動を考えると、法人化は、活動そのものの社会的信頼性向上にもつながるため、いずれは法人化することが望ましい。そうであれば、早い方がよいとの結論に至り、同年 4 月、非営利型一般社団法人みんなの家みんなとして設立登記を完了した。 ③事業維持のための収益はまだ不十分である。現時点で、薪、玄米パフ、竹製品、杉の香製品など、年間 60 万円ほどの売上で、収益は 25 万円程度となっています。商品そのものは、非常に好評なのですが、個人販売の域を出ることができていない。販売店や企業との接点づくり、ネット販売の検討などを継続的に行っている。JANPIA 主催の九州マッチングへも参加し、企業との連携や協業事業などの提案により、収益基盤の安定に向けて関係づくりを行っている。				
短期アウトカム6	指標	初期値／初期状態	目標値／目標状態	目標達成時期
みんなの家みんなの事業を継続させるための人づくり、組織づくりを行う	①事業に参加するメンバーの増員 ②法人化	①近親者を中心に事業立ち上げを行うが、関わる人を増やしながら共感者、思いの共有者を発掘。また、子どもたちの状況を理解できる若者を育てることにより、みんなの担い手となる教育を試みる。 ②任意団体として事業を開始するが、財団および事業関係者での協議を重ね、法人化へ向けた検討と環境整備を行う。	①みんな事業に関わる人との交流および対話が行われている。また、みんなの対象となる若者との関りにおいて、みんなの担い手となりうる若者が見出される ②法人化に向けた検討結果報告書作成または法人化の実現	2024 年 3 月

短期アウトカム6の実績	
① 現在の活動は代表理事が中心となって実施している状態である。人材については、若者の 滞在者数および滞在期間が、限られており、みんな滞在者の中から、団体の担い手を見つけるには至っていない。公私含め日々の活動の中で「みんな」について話をすることで、共感し協力してくれる人は増えている。この事業を進めていく上で、必要な時に相談できる人は増えている。しかし、団体の内部の人材として関わってもらえる人の確保は難しい。みんなの事業は制度上にあるものでなく、特殊性があるため事業自体の理解を得られにくい側面がある。そのため、担い手となる人材は、社会的養護経験者や支援経験者でみんなの存在意義が分かる人でないと難しいと考える。また、収益事業を行うことにより、みんなそのものが働く場となり、経済的に成り立つ必要がある。 ②事業当初から、ちくご川コミュニティ財団と法人化に向けた検討を開始。将来の活動を考えると、法人化は、活動そのものの社会的信頼性向上にもつながるため、いずれは法人化することが望ましいと考え、できるだけ早い方がよいとの結論に至り、2022 年 4 月、非営利型一般社団法人みんなの家みんなとして設立登記を完了した。現在、理事 3 名、監事 1 名。社会的養護に関わる方にとって、若者が安心できる団体かどうかは重要で、様々な人と話をする中でも、任意団体より法人格としたことによって、より信頼度が増していると考え。	
アウトカム6の達成度	■ 目標値を上回っての達成（3 点） ■ 目標値通りの達成（2 点） ■ 目標値を概ね達成（1 点） ■ 目標値を達成できていない（0 点）
結果の要因と課題	
当初の計画では、滞在する若者の中から事業期間中に担い手が出てくることを想定していたが、滞在者数・期間が限られており難しかった。事業中に関わってくれる協力者は多かったが、一緒に団体を運営していくまでには至っていない。しかし、法人化したことで理事・監事になってもらった近隣住民は積極的に事業に関わってくれており、事業開始当初よりも人材は充足している。 法人化については、寄付を主体とした収入ではなく、事業収益を得ていく方向であること、ソーシャルビジネスの要素があること、公益性の高い事業であること、法人税が免除されることなどを考慮し、非営利型の一般社団法人とした。任意団体のころと比べて、団体の信頼性が向上し、行政からの見られ方、企業マッチングの際の見られ方などに良い影響があったと考える。波及効果として、対象地域に別法人として一般社団法人黒川ができ、地域づくりなどの活動を行う予定である。設立にあたってはみんなの代表がみんなの一般社団法人化の経験を生かした。	

【非資金的支援】

①組織基盤強化「事業・組織」に関するアウトカム、アウトプット、活動

アウトプット1	指標	初期値	目標値	達成時期
1-1. 実行団体の内部に事業を企画・運営できる人材がいる	①事業運営、評価に関する勉強会・研修会の実施回数と参加者数【両団体共通】	①月に一度、当財団が主催で勉強会を実施しているが、事業運営、評価に関するものは実施できていない。	①事業運営、評価をテーマにした勉強会・研修会をそれぞれ年に1回以上実施する。また、それに実行団体のスタッフの過半数が参加する。	1-1. 2023年9月 1-2. 2024年3月 1-3. 2023年9月 1-4. 2023年9月 1-5. 2023年9月
1-2. 調査（評価）を担当できる人材がいる	②事業運営、評価に関する個別相談や支援の回【両団体共通】	②月次の面談と必要に応じて随時実施している。	②月次面談も含めて月に2回以上は事業運営、評価についての個別相談や支援を行う	
1-3. 団体の組織力が高い	③組織図が作成され、団体内の役割分担が明らかになっているか【両団体共通】	③組織図は作成されておらず、役割分担が明らかでない。	③組織図が作成され、役割分担が明らかになった状態で事業運営されている。	
1-4. 実行団体の組織診断・評価が行われている	④非営利組織評価センターの評価を受け、課題が分析できているか【わたしと僕の夢】	④認証の申請を検討している段階	④非営利組織評価センターの評価を受け、課題が明らかになっている	
1-5. 実行団体のガバナンス・コンプライアンス体制が整っている	⑤チェックリストを用いて組織診断が行われ、課題が分析できているか【わたしと僕の夢】	⑤まだ組織診断が実施されていない	⑤チェックリストを用いて組織診断が行われ、課題が明らかになっている	
	⑥定款、規定類が適切に整備され、団体ホームページで公表されているか【みんなの家みんな】	⑥法人化しておらず、定款、規定類は整備されていない	⑥定款、規定類が適切に整備され、団体ホームページで公表されている	

活動	1. 事業運営に関する定期的な勉強会や研修会の実施 2. 事業担当者の確保、育成についての支援 3. 実行団体との定期的な個別面談の実施 4. 実行団体内部のミーティングへの参加 5. 事業進捗管理についての支援 6. 評価(事前・中間・事後評価)についての支援 7. 事業計画書等の作成方法についての支援 8. 事業計画の改善についての支援 9. 組織図作成についての支援 10. 人材の紹介 11. 組織評価・組織診断に関する勉強会の実施 12. 非営利組織評価センターのベーシックガバナンス評価申請の支援 13. 非営利組織評価センターのグッドガバナンス認証申請の支援 14. NPC ガイドを活用した組織診断の実施 15. 組織診断・評価の結果を踏まえた組織基盤強化についての計画立案 16. 認定 NPO 取得についての支援 17. 規定類作成の支援 18. 他団体の視察についての支援 19. 規定類の運用についての支援 20. 理事、事務局メンバーとなる人材の確保、育成についての支援 21. 理事会運営についての支援			
アウトプット 1 の実績				
①2021 年 5 月～2024 年 1 月の期間に、実行団体向けの勉強会、研修会等を 26 回実施し、実行団体以外の団体も含め 412 人の参加があった。わたしと僕の夢については毎回 2 名以上の参加があった。勉強会、研修会のテーマは「ファンドレイジング」、「広報」、「ふるさと納税による NPO 等支援」、「SDGs」、「クラウドファンディング」、「SEO」、「地域円卓会議」、「ケースステートメント」、「寄付、寄付市場」、「遺贈寄付」など実行団体のニーズに応じて実施した。詳細は添付資料 3 月次勉強会実績を参照。 ②両実行団体に対して継続して月に 2 回以上個別相談や支援を実施した。また、少なくとも 2～3 ヶ月に 1 回は P0 が現地訪問をした。 ③わたしと僕の夢は添付資料 4 組織図の通り、組織図が詳細に作成され、各自の役割が明確化された。実施前と比べ、理事会メンバーが 6 名から 13 名に増え、企業、医療、福祉、他の CSO 役員、心理士、医師、弁護士、税理士など多岐に渡る分野から構成されている。また、現場運営の責任者が理事となることで、理事会と現場の調整役ともなっている。各理事・監事は地域においても影響力のあるメンバーで、かつ組織へのコミットメントも高く、理事からの寄付があるなど社会的影響力のある理事会（Influential Board）もしくはファンドレイジング型理事会（Fundraising Board）と考えられる。現場レベルにおいても、居場所運営、就労支援、広報、事務局、資金調達・組織運営（マネジメント）など部署が細分化された。事業実施期間中に新たに 4 つの事業（拠点）が増えたが、円滑に運営できる体制となっている。みんなの家みんかについては一般社団法人化により理事会ができているが、理事メンバーが現場の活動も行う体制であり、組織図は作成されていない。 ④わたしと僕の夢が日本非営利組織評価センターのベーシックガバナンスチェックの評価を取得、グッドガバナンス認証取得に向けて準備中。また、事業期間中に認定 NPO 法人格を取得し、組織体制の強化を図ることができた。みんなの家みんかについては、まずは法人化に注力したため、認証取得までには至っていない。 ⑤わたしと僕の夢は上述の通り、ベーシックガバナンスチェックを受けたが、組織診断については実施できず。 ⑥両団体とも定款、規定類など HP 上で適切に公開されている。				
短期アウトカム 1	指標	初期値/初期状態	目標値/目標状態	目標達成時期
実行団体が社会から信頼される体制を整え、円滑な事業運営ができている	①事業の進捗が計画書（事業計画、評価計画）通りに進んでいる【両団体共通】	①事業計画上の活動は予定通りに進んでいるが、評価には予定よりも大幅に期間を要している	①事業計画、評価計画通りに事業を進めることができる	2024 年 3 月 1 日

	②非営利組織評価センターのベーシックガバナンス（グッドガバナンス）評価を取得している 【わたしと僕の夢】 ③組織診断の結果をもとに組織基盤強化の計画が実行されている 【わたしと僕の夢】 ④役員メンバーが充足し、定款、規定類に基づき団体運営がされている 【みんなの家みんな】	②1つの団体が評価の申請を検討している状況である ③両団体とも組織診断ができていない ④法人化しておらず定款はない。また規定類は申請時に作成されているが運用が伴っていない。	②両団体ともベーシックガバナンス（グッドガバナンス）評価を取得している ③組織診断がなされ組織基盤強化の計画が実行されている ④必要な役員が確保され、定款、規定類に基づき団体運営を実施している
アウトカム1の実績			
①わたしと僕の夢では、計画していた活動48個のうち46個を予定通り行い、実施率は96%と非常に高い。また、アウトプット9個のうち、「目標値を上回っての達成」が4個、「目標値通りの達成」が5個、短期アウトカムは3個のうち、「目標値を上回っての達成」が3個であった。みんなの家みんなでは、計画していた活動54個のうち51個を実施し、実施率は94%と高い。アウトプット7個のうち、「目標値通りの達成」が4個、「目標値を概ね達成できている」が3個、短期アウトカムは3個のうち、「目標値通りの達成」が1個、「目標値を概ね達成できている」が2個であった。評価については、計画していた項目は実施できたが、期間が予定よりも長くなってしまった。 ②わたしと僕の夢が日本非営利組織評価センターのベーシックガバナンスチェックの評価を取得、グッドガバナンス認証取得に向けて準備中。 ③組織診断については実施できず。 ④みんなの家みんなにおいて、事業期間中に一般社団法人化した。これにより定款の作成、規定類の再整備、理事会を会社役員、地域住民により構成し、組織体制を強化した。			
アウトカム1の達成度	■ 目標値を上回っての達成（3点） ■ 目標値通りの達成（2点） ■ 目標値を概ね達成（1点） ■ 目標値を達成できていない（0点）		
結果の要因と課題（アウトカムについての考察）			
①わたしと僕の夢は代表者とは別に事業担当者1名が開始当初から事業全体の設計、管理等を行っていたため、当財団として事業運営について支援対象とする人が明確であった点は支援のしやすさに大きく影響した。また、事前評価時に、課題の分析からのロジックモデル作成の伴走支援に注力したこと			

で、確度の高い事業設計ができたと考える。当財団 P0 と担当者の関係性も良好であったため、スムーズなコミュニケーションが取れ、確認事項、疑問点などはチャットのやり取りで即時に解決していくことができた。また、月次面談や勉強会には毎回2名以上複数名で参加があり、団体内での事業に対する理解や進捗の確認が取りやすくなり、共通認識を持って事業運営ができていたと考える。P0 は団体の活動現場に積極的に出向き、対象の子ども達に触れることで、そこにある課題や事業による対象者の変化などを体感することを重視した。現場に行くことで、事業担当者以外のスタッフとも信頼関係を築くことができ、組織全体の状況を把握できるようにした。時には組織としての連絡のみではなく、P0 宛にスタッフから個人的に悩みや困難な事柄について連絡があり、相談にのっていた。組織同士の関係性に加え、個人間の関係性も大事にすることで、よりスムーズな事業運営につながったと考える。

みんなの家みんかについては、事業開始当初から代表者が事業の管理・運営、広報、会計など全ての役割を担っており、負荷が高い状態であったが、手続き等に遅れが出ることはなくスムーズな事業運営ができたと考える。ただ、代表者以外に事務局長の役割ができる人材を確保できていれば、代表者がより若者との接点づくり、関係機関との連携などを図ることができ、滞在者の増加、それによるアウトカムの達成度の向上ができたと考える。人材確保についての支援ができれば良かったが、みんかの事業の特徴上、なかなか合う人材がいなかった。わたしと僕の夢同様に、課題の分析とロジックモデル作成の伴走支援は手厚く実施したが、スタートアップの事業としてはアウトカムの目標値が高かったと考える。

②グッドガバナンス認証について勉強会、月次面談の際に、その重要性を説明し、取得について促した。また、当財団自らが取得することにより、そのメリットなどを経験者として伝え、取得に向けた動機づけを行った。団体の意向もあり、まずはベーシックガバナンスチェックを取得した。認定 NP0 取得についても、取得に向けた活動に使える助成金の申請のアドバイスを行うなど伴走した。わたしと僕の夢では、以前から認定を取る話はあったが、踏み出せずにいたところを、休眠預金活用事業が始まり、当財団という伴走者がいることで、取得に向けた活動に踏み切ることができた。

③組織診断については当財団の技術、知識不足により実施ができなかったが、事前・中間・事後評価ごとに伴走支援についてのアンケート、ヒアリングを行い、組織の状況を踏まえたオーダーメイドの伴走支援ができるように努めた。中間評価のアンケート・ヒアリング結果と事業の運営状況を踏まえて、アウトプット、アウトカムの指標を各団体ごとに設定した。これにより、団体ごとの伴走支援の力点の置き所が明確になった。

④みんなの家みんかについて、当財団としては事業開始当初から、法人化の必要性を説明していたが、代表者から「施設を作るわけではない」とその時は理解が得られなかった。法人化＝施設を作ることではないことを繰り返し説明し、信頼性の向上など法人化のメリットについて、機を見て説明し、理解を得ることができた。法人化にあたり、みんなの家みんかにあった法人格の選択（一般社団法人）についてのアドバイス、定款作成の支援、登記手続きに関する相談などを実施したことにより、スムーズに手続きが完了した。

以上のことから、「実行団体が社会から信頼される体制を整え、円滑な事業運営ができている」は目標値通り達成できていると考える。

P0 による伴走支援の様子は添付写真 1、添付写真 2 を適宜参照

添付写真 1



※左上から時計回りに

- 実行団体訪問中の JANPIA 担当 PO(右 2 名)と資金分配団体 PO(中央 2 名)
- 塾卒業生で発足したバンド
- 実行団体担当者と面談中の資金分配団体 PO(右)
- 企業連携によるイベントで受益者と紙飛行機を折る資金分配団体 PO(右)



※左から

- 実行団体を訪問する資金分配団体 PO(右)と JANPIA 担当 PO
- 本みんなの建設状況をみる資金分配団体 PO(左)
- 2023 年に福岡市で開催された企業マッチング会の実行団体ブースにはたくさんの企業が立ち寄った

添付写真 2

②組織基盤強化「連携・広報」に関するアウトカム、アウトプット、活動

アウトプット2	指標	初期値	目標値	達成時期
2-1. ステークホルダーと課題の共有などができる場が定期的に設けられている 2-2. 事業に関係する多様なステークホルダーの分析ができている 2-3. メディアやSNS、広報誌などを活用した広報の方法が確立している 2-4. 実行団体に広報担当の人材がいる	①実行団体の事業についての関係者分析が行われ、図に表されている ②実行団体が主催するステークホルダーとの会議等の実施回数と参加者数 ③広報に関する個別相談や支援の回数 ④団体内に広報担当者が1人以上いる	①1つの団体は関係図を作成しているが、詳細な分析は実施できていない。もう一つは図の作成がまだできていない ②実行団体が主体となった会議等の開催は実施できていない ③1つの団体に対しては必要に応じて相談や支援を実施できている ④広報を担当している人材はいるが兼任で行っており、その他の業務もあり十分に能力を発揮できていない	①関係図を作成し、詳細な関係者分析ができている ②実行団体が主体となって年に1回以上会議を実施できるようになる ③両団体に対して月に1回以上、個別相談や支援を実施する ④広報担当者の能力強化が図られ、一人でも団体の広報を担えるようになっている。	2-1. 2023 年 12 月 2-2. 2022 年 11 月 2-3. 2023 年 9 月 2-4. 2022 年 12 月
活動	1. 事業の関係者分析についての支援、2. ステークホルダーとの会議をコーディネートする、3. 行政機関との関係構築の支援、4. 企業との関係構築の支援、5. 筑後川関係団体との関係構築の支援、6. 大学、研究機関との関係構築の支援、7. 地域住民との関係構築の支援、8. 広報に関する勉強会や研修会の実施、9. ウェブサイト、SNS を活用した広報についての支援、10. 機関紙、ニュースレターなどの作成支援、11. マスメディアとの関係構築についての支援、12. 広報担当者（兼ファンドレイジング）の確保、育成についての支援、13. 広報戦略策定についての支援			
アウトプット2の実績				
①添付資料 5_ステークホルダーマップの通り、両団体ともに関係図を作成できている。わたしと僕の夢は、事業開始時に比べ、図に表されている関係者（団体）が13 団体から 84 団体に大きく増加している。みんなの家みんなは事業開始時の関係者は測定できていないが、終了時点で事業連携している関係者が 16 団体あり、事業期間中のみんなの家みんなを通じた交流人口は累計で 8,974 人にまで達した。				

②実行団体単独で実施するものはなかったが、当財団と共催で、キックオフミーティング1回（参加者50名程度）、事業報告会4回（各回の参加者50名程度）実施し、合計250名の関係者と課題や事業について共有する場を設けた。その他、わたしと僕の夢はクラウドファンディングのセミナーに講師登壇するなど事業で培ったノウハウを地域に伝える立場になっている。

③CCFの企画広報部長であるP0が月次面談や日常連絡の中で、広報活動について随時相談を受けたり気づきを共有したりしている。各団体のウェブサイトやSNSの発信内容及び紙媒体の定期刊行物も確認し、改善点などを随時提案している。

④わたしと僕の夢では事業期間中に広報担当職員1名（居場所運営と兼務）を置くことができるようになり、SNS、HP、ニュースレター、活動報告書により発信を強化できている。みんなの家みんかでは代表者が兼務し、Xはほぼ毎日更新、事業と相性の良いSNS（X）を運営できたことにより対象者との接点が増加した。

短期アウトカム2	指標	初期値/初期状態	目標値/目標状態	目標達成時期
実行団体が自団体の事業について社会に向け発信し、多様なステークホルダーと連携・協働している（組織基盤強化）	①多様なステークホルダーとコミュニケーションを取り、具体的な連携・協働の事例ができている ②メディア等で事業や活動について紹介された件数 ③実行団体のSNSフォロワー数や投稿数、投稿への「いいね」の数（投稿へのエンゲージメント数）	①一部の関係者とは定期的にコミュニケーションが取れているが、具体的な連携・協働の事例はない。 ②実行団体の本事業についての紹介実績はなし ③実行団体のFacebookページのフォロワー数の平均が266、事業に関連したSNS上の投稿はほとんどない、団体の各投稿の「いいね」数は平均10前後で少ない	①ステークホルダーの特性に応じたコミュニケーション手段を確立し、具体的な連携・協働の事例が1つ以上できている。 ②各団体で年間3件以上メディア等に掲載される ③Facebook ページフォロワー数1000、SNS上での投稿を週に1回以上行い、各投稿の「いいね」数50を目指す	2024年3月1日

アウトカム2の実績

①わたしと僕の夢は、JANPIAによる企業マッチング会から経団連会員の3社（SMBCグループ、JAL、セールスフォース）と連携し、理念体系の明確化と組織内浸透、マニュアル作成、金融教育、紙ヒコーキ教室、福岡空港見学、オンラインプログラムなど多様な取り組みを実施できた。当財団はコーディネーター役として、企業と実行団体の連絡調整やプロボノチームの現地訪問のアテンドなどを行い、スムーズな連携を図った。その他にも企業・CSOからの食材提供、大学からの学生の受け入れ、地場企業による出前講座、銀行のSDGs 私募債による支援など多様な連携が具体的に生まれている。また、行政連携においては添付資料6 行政担当課へのヒアリング結果にある通り、「団体と接する機会に、（事業開始前と比べて）団体の変化を感じる。実績報告書等の書類作成の際のミスが少なくなった。休眠預金事業を通して様々な経験値を積まれたことにより、ケアレスミスが減ってきたのではないかと考える。」というコメントがあるなど、行政からの信頼性が向上したことが窺える。みんなの家みんかは、2023年11月のJANPIAによる企業マッチング会から3社と対話を行い、うち1社と収益事業に関わる相談を月に1回継続的に実施することになっている。

②報道実績は新聞 5 件(2022 年 12 月西日本新聞, 筑邦銀行などがプレゼント/2023 年 12 月西日本新聞, 小国教室 CF/, 2024 年 1 月佐賀新聞, 鳥栖とどろき塾/2024 年 3 月 11 日西日本新聞, 久留米の NP0 無料塾を 5 カ所で運営/2024 年 3 月 28 日西日本新聞, 子ども食堂で本格すし) ③わたしと僕の夢は、SNS フォロワー671 人 (Facebook313 人、Instagram 358 人) で事業開始時点から 2.5 倍に増加している。リーチ数も 2022 年の 2,534 人 (Facebook, インスタ合計) から 2023 年には 5,628 人となり 2.2 倍増加した。みんなの家みんなは、SNS フォロワー824 人 (Facebook463 人、X361 人) で事業開始時点から 3 倍増加した。特に X は事業期間中に開始し、0 から 361 人まで大幅に増加した。	
アウトカム 2 の達成度	■ 目標値を上回っての達成 (3 点) ■ 目標値通りの達成 (2 点) ■ 目標値を概ね達成 (1 点) ■ 目標値を達成できていない (0 点)
結果の要因と課題 (アウトカムについての考察)	
①わたしと僕の夢の企業マッチングにおいては、プロボノを受け入れるにあたっての団体のニーズの設定から、一緒に検討した。他地域にも拠点が増えるなど事業が急拡大している時期であったこともあり、ミッション・ビジョンの明確化と組織内浸透をニーズとして設定したところ、わたしと僕の夢の事業への共感もあり、3 社とのマッチングが実現した。初期の段階では、企業との連絡、調整においても P0 が間に入って行い、実行団体が慣れてきたところで直接のやり取りをしてもらったため、円滑なやり取りができた。また、企業側から当財団に実行団体のことについて直接相談があり、企業、当財団の 2 者で打ち合わせをするなどして、実行団体への理解を深めてもらうことにつながったと考える。そのため、SMBC グループのプロボノチームからはミッション・ビジョン明確化と浸透、マニュアル作成、金融教育の 3 チームから支援を受けることができるなど密な連携につながった。また、コーディネーター役として適宜、通訳の役割をしながら、企業と実行団体の相互理解が進むように関わったことも重要であったと考える。みんなの家みんなはマッチング会から 3 社と対話し、そのうち 1 社とこれから企業連携が進む予定であるが、既に、企業より当財団宛に 2 者での打ち合わせ依頼がくるなど、資金分配団体を含めた関係の構築ができ始めている。 ②報道実績 5 件中 4 件が事業最終年度であることから、本事業の成熟と共に報道各社の関心を集め実績が増えたと言える。社会課題の解決に寄与していることや公益性の高さを知らしめ、情報の発信者(新聞社)と受信者(読者)の共感と呼んだ。そもそも、事業対象地域をカバーする西日本新聞社久留米総局とは当財団が関係構築していたことから、実行団体との接点づくりを後押しし、継続的に取材を受ける信頼性ができていた。事業最終年度では西日本新聞福岡本社からも取材されるようになった。 ③両団体とも SNS フォロワー、リーチ数が増加している。わたしと僕の夢は、事業開始時は P0 が Facebook の管理メンバーに入りながら投稿の方法などを伝えるなどした。クラウドファンディングの際には投稿の広告の作成方法なども一緒に操作しながら実施した。現在では、広報担当者が決まり、継続的に高頻度で発信ができるようになっている。事業が成長したことにより、発信すること自体が増えていることも大きな要因と考える。みんなの家みんなについては、事業と相性の良い SNS の選定からアドバイスをを行い、匿名性の高い X (旧 Twitter) の選定に至った。様々な背景をもった若者にとって個人情報分からない形でやり取りができることは心理的安全性につながり、フォロワーの増加に影響したと考える。 上記より「実行団体が自団体の事業について社会に向け発信し、多様なステークホルダーと連携・協働している」は目標値を達成していると考えます。	

③組織基盤強化「財源」に関するアウトカム、アウトプット、活動

アウトプット3	指標	初期値	目標値	達成時期
3-1. 実行団体が安定した寄付収入や助成金等を獲得している 3-2. 実行団体が収益事業を行い、収入を得ている 3-3. 実行団体にファンドレイジング担当の人材がいる	①ファンドレイジングに関する個別相談や支援の回数【両団体共通】 ②クラウドファンディングの達成回数【わたしと僕の夢】 ③必要に応じて助成金等が獲得できている【両団体共通】 ④収益事業についての個別相談や支援の回数【みんなの家みんな】 ⑤団体内にファンドレイジング（広報と兼務）担当者が1人以上いる【両団体共通】	①1つの実行団体に対してはクラウドファンディングについての支援を実施している ②クラウドファンディングをまだ実行していない ③助成金等を獲得できていない ④収益事業による収入はない ⑤ファンドレイジング担当者がいない	①両団体に対して月に1回以上、個別相談や支援を実施する ②実行団体が年に1回以上クラウドファンディングを達成する ③実行団体が年に1回以上助成金等を獲得できている ④収益事業にて収入を得ている ⑤ファンドレイジング担当者の能力強化が図られ、団体のファンドレイジング全般業務を担えるようになっている。	3-1. 2023年12月 3-2. 2023年12月 3-3. 2023年4月
活動	1. ファンドレイジングについての勉強会・研修会の実施、2. 既存・潜在寄付者の分析についての支援、3. ファンドレイジング計画作成についての支援、4. ファンドレイジングサイクルを回すための支援、5. 助成金・補助金の申請書作成についての支援、6. 収益事業の計画策定についての支援<みんな>、7. クラウドファンディングについての支援、8. ファンドレイジング担当者（兼広報）の確保、育成についての支援、9. コングラントの活用についての支援<わた僕>、10. 行政委託事業の獲得についての支援<わた僕>、11. 会計処理についての支援<みんな>、12. 財務諸表の作成についての支援<みんな>			
アウトプット3の実績				
①両団体に対して月次面談と適宜必要に応じて個別相談や支援を実施した。わたしと僕の夢にはクラウドファンディングの分析、ファンドレイジングを意識した発信についてのアドバイス等を実施、みんなの家みんなには収益事業の実績等から事業終了後の資金調達についての相談、アドバイスを実施した。 ②わたしと僕の夢は、事業期間中に4回のクラウドファンディングを実施し、総額約547万円の資金調達に成功した。特に1回目、2回目の実施の際はテーマ決めやSNSでの発信方法などを支援し、現在の事業にもつながる有益な活動となった。				

③わたしと僕の夢は、受取助成金が事業開始前の 2020 年度の約 99 万円から事業終了時の 2023 年度で 1,598 万円となり、16 倍まで増加した。みんなの家みんかでは事業開始前は受取助成金が 0 円だったものが、事業期間中に 539 万円まで増加した。

④みんなの家みんかについて、現在、収益事業である薪、玄米パフ、竹製品、杉の香製品の販売による売り上げは年間 60 万円ほどで、収益は 25 万円程度である。

⑤わたしと僕の夢は、ファンドレイジング担当者、広報担当者が当財団の勉強会に参加するなどして能力強化を図っている。みんなの家みんかは代表者が資金調達も担当している。

短期アウトカム 3	指標	初期値/初期状態	目標値/目標状態	目標達成時期
実行団体が団体運営に必要な資金調達を安定的にできるようになっている (組織基盤強化)	①財務状況が組織診断チェックリストにて健全と判断されている 【わたしと僕の夢】 ②ファンドレイジング計画の策定状況と計画の進捗状況【わたしと僕の夢】 ③財務諸表を作成できるようになり、財務状態を分析できている 【みんなの家みんか】 ④収益事業の収入により事業全体の運営を賄える見通しができている 【みんなの家みんか】	①過去の寄付実績等より 2021 年度は事業運営に必要な財源を確保できる見通しがあるが、事業拡大に対応できる財務状況ではない。また、組織診断チェックリストに基づいた評価がされていない。 ②ファンドレイジング計画を立案できていない。 ③財務諸表を作成できていない。 ④収益事業による収入がない。	①組織診断チェックリストにより財務状況が健全と判断され、休眠預金活用事業による助成金がなくても、継続した事業運営ができる財務状況となっている。 ②ファンドレイジング計画を立案し、予定通り実行できている。 ③財務諸表を作成でき、かつ、財務状況を分析できている。 ④事業収入により年間の支出を賄える見通しが立っている。もしくは、収入に応じた事業規模について計画ができている。	2024 年 3 月 1 日
アウトカム 3 の実績				

- ①わたしと僕の夢について、組織診断チェックリストによる財務分析まではできていないが、事業開始前 2020 年度の収入が合計 2,469 万円（内訳：事業収益（委託事業）80%、受取寄付 16%、受取助成金 4%）から 2023 年度は収入合計が 6,949 万円と 2.8 倍に増加した。内訳も事業収益（委託事業）54%、受取寄付金 23%、受取助成金 23%となり、委託事業に頼らない多様な財源を確保することができた。
- ②わたしと僕の夢について、クラウドファンディングの積極的な実施など短期的なファンドレイジング計画を実行できた。今後は、中長期的なファンドレイジング計画策定を行う必要がある。
- ③みんなの家みんかは一般社団法人化したことにより、税理士の指導のもと、2022 年度分の財務諸表（貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録）を作成することができた。
- ④みんなの家みんかについて、現在、収益事業である薪、玄米パフ、竹製品、杉の香製品の販売による売り上げは年間 60 万円ほどで、収益は 25 万円程度である。

アウトカム 3 の達成度	わたしと僕の夢：■ 目標値を上回っての達成 (3) ■ 目標値通りの達成 (2) ■ 目標値を概ね達成 (1) ■ 目標値を達成できていない (0) みんなの家みんか：■ 目標値を上回っての達成 (3) ■ 目標値通りの達成 (2) ■ 目標値を概ね達成 (1) ■ 目標値を達成できていない (0)
--------------	---

結果の要因と課題

- ①事業開始前の委託事業に頼った財源から、多様性、金額とも大きく改善した。この結果に対する伴走支援による影響としては、准認定ファンドレイザーを持っている担当 P02 名からファンドレイジングについて体系的に伝えたことは大きいと考える。月次勉強会、月次面談、個別対応により、ファンドレイジングの知識の習得から実践までを丁寧に伴走したことで、組織がファンドレイジング体質になる支援をできたと考える。また、寄付管理システムのコングラントの紹介と導入のサポートなども実施したことで、寄付受け入れの環境整備にも貢献できたと考える。
- ②クラウドファンディングの実施についても、なぜ実施するのか、どんな内容で実施するのか、どのサービス（会社）を利用するかを協議した。対話の中で、食支援の充実のためのシステムキッチンの必要性、子どもが高校進学を諦めないために制服を支援する必要があることが分かり、テーマを決定できた。第 1 回目、2 回目の間はわずか 3 ヶ月間しか空いてなかったが、当財団も積極的に広報協力を行い、個別での支援の呼びかけも協力するなどして成功することができた。実施期間中は、P0 がキュレーターの役割を担い、最初の 5 日間のスタートダッシュ、最後の 5 日間の追い込みの促し、期間中の発信の促しなどを実施した。クラウドファンディングでの盛り上がりや成功体験は、スタッフ全体のファンドレイジングへの意識付けを確実に強めたと考える。
- ③法人化に伴い、税理士についてもらうことの重要性を説明し、税理士への依頼、相談のもと団体として初めて財務諸表の作成ができた。財務分析からみんかに適した資金調達の計画策定、実施までサポートしたかったが、若者を受け入れるための環境整備や受け入れ後の対応のサポートなどを中心に実施したため、手が回らなかった。
- ④収益事業については、年間数十万円の売り上げであり、事業を支える財源とはなっていない。みんか事業の場合、寄付による資金調達ではなく収益事業による財源確保を目指すというソーシャルビジネスの要素があり、当財団の専門性では資金調達についての伴走が難しかった。また、事業を開始したばかりであり、まずは若者を受け入れる体制づくりや滞在者への対応が重要であったため、収益事業に関する活動に注力できなかったことも要因と考えられる。スタートアップの事業としては、指標や目標値の設定の難易度が高かったかもしれない。

以上のことから、「実行団体が団体運営に必要な資金調達を安定的にできるようになっている」については、わたしと僕の夢は「目標値を上回っての達成」、みんなの家みんかは「目標値を概ね達成」と考える。

④環境整備「社会の認知・理解」に関するアウトカム、アウトプット、活動

アウトプット4	指標	初期値	目標値	達成時期
4-1. 筑後川関係地域において、休眠預金等活用事業や本事業について知っている人が増える 4-2. 本事業についてマスメディア等に取り上げられている 4-3. 多様なステークホルダーが本事業について知る機会が設けられている	①休眠預金活用事業や本事業についての説明会等の回数と参加者数 ②マスメディア関係者とのコミュニケーション回数 ③事業や地域の社会課題に関連したサロン（オープンな勉強会）の回数と参加者数	①事前評価ワークショップを開催し、関係者へ事業について知らせる場を1度設けた ②当財団、実行団体それぞれに不定期にコミュニケーションをとっているが、本事業についての取材を受けたりはできていない ③月に一回、当財団主催の勉強会を実施しているが、参加者は財団の関係者のみとなっている。	①当財団が主催する事業についての説明会等を年に2回以上実施する ②イベントなどの実施時には必ずマスメディア関係者に連絡を取り、取材依頼等を行っている。 ③月に1回以上のサロンの開催と一般の参加者数の増加	4-1. 2023年12月 4-2. 2023年9月 4-3. 2023年9月
活動	1. 休眠預金等活用事業や本事業についての啓蒙活動、2. 当財団、実行団体の支援者・関係者への事業についての報告書等の送付、3. 休眠預金活用事業シンボルマークの積極的な活用、4. マスメディア関係者との関係構築、5. 筑後川新聞、CHIKUGOGAWA. Biz への記事掲載、6. 定期的な事業に関連したサロン（オープンな勉強会）の実施、7. 事業についての認知度調査			
アウトプット4の実績				
①事業のキックオフミーティング1回（参加者50名程度）、事業報告会4回（各回の参加者50名程度）実施し、合計250名の関係者と課題や事業について共有する場を設けた。また、本事業や本事業対象地域における社会課題の周知を目指した定期刊行物「ニュースレター」を事業期間中計8回（計2500				

部) 発行。事業進捗や実行団体の活動報告のほか、環境整備や組織基盤強化に関する記事を掲載した。支援者への郵送や他の中間支援組織での配架を実施した。

添付資料 7 ニュースレター発行一覧

②報道実績は 4 件：2023 年 1 月西日本新聞、福岡県初グッドガバナンス認証取得/2023 年 3 月、西日本新聞、20 年度事業年次報告会/2023 年 3 月、コミュニティラジオ天神/2023 年 9 月、雑誌オルタナ

③2021 年 5 月～2024 年 1 月の期間に、月次勉強会等を 26 回実施し、実行団体以外の地域の CSO も含め 412 人の参加があった。

短期アウトカム 4	指標	初期値/初期状態	目標値/目標状態	目標達成時期
筑後川関係地域を中心に、本事業や解決を目指す社会課題について社会的に認知・理解されている (環境整備)	①事業の認知度についての行政・企業・市民向けアンケートの結果 ②社会課題（子どもの貧困、若者の社会的孤立）についての認知・理解度アンケートの結果 ③事業に関連した SNS 上の投稿数と投稿への反応の数	①、②事業についてのアンケートを実施できておらず筑後川関係地域の認知・理解度が分からない。 ③定期的な投稿が実施できていない。「いいね」数は 10 前後と反応を得られていない。	①、②事業報告会、勉強会等でアンケートを実施し、事業や社会課題についての認知・理解度を明らかにする。また、イベント毎に事業説明や社会課題についての説明を行い、認知・理解度を向上する。 ②SNS 上での投稿を週に 1 回以上行い、各投稿の「いいね」数 50 を目指す	2024 年 3 月 1 日

アウトカム 4 の実績

①②事業期間中に実施した報告会等（公募説明会、キックオフミーティング、年次報告会※2021 年度事業含む）で休眠預金活用制度についての説明を実施。参加者への制度の認知度アンケートでは回答者 155 名の内、「良く知っていた（内容を把握している）」63 名（約 40%）、「言葉を聞いたことがあった」55 名（約 35%）、「全く知らなかった」37 名（約 23%）という結果であった。制度説明を実施したことにより「言葉を聞いたことがあった」、「全く知らなかった」の 92 名の認知度、理解度を高めることができた。報告会参加者へのアンケートのため限られた集団への調査となっており、今後は広く地域向けの調査が必要。

③SNS は事業初年度より Facebook を運用、3 カ年（2021 年 4 月～24 年 3 月）でフォロワー総数 493 人に達した。年度ごとに分析したところ、リーチ数は初年度 1,205、2 年度目は 1.7 万（1,346%増）最終年度は 11.3 万（548.1%増）だった。中間評価以降はほぼ毎日投稿をしており、広告運用も実施したことから実績につながった。事業 2 年度から X(旧 Twitter)を運用開始。X は 2022 年 11 月～24 年 3 月でフォロワー 297 人/「いいね」数 4,725/インプレッション(投稿が見られた回数)510,055 だった。運用開始以降はほぼ毎日最低 1 回は投稿している。最終年度の 2023 年 12 月から Instagram を運用開始。90 日間でフォロワー 93 人/リーチ数は 2.5 万だった。

アウトカム 4 の達成度	 目標値を上回っての達成（3 点） 目標値通りの達成（2 点） 目標値を概ね達成（1 点） 目標値を達成できていない（0 点）
--------------	---

結果の要因と課題

①②報告会開催ごとの限定的な調査となり、対象地域において「子どもの貧困」や「若者の社会的孤立」に対する認知・理解が広まったかを図ることはできていない。地域を対象として理解度、認知度を調査する方法について検討できておらず実施に至らなかったが、今後、評価アドバイザーの指導のもと調査会社を利用したアンケート調査の実施を予定している。

③後述「アウトプット6の実績④」と両輪で実施。事業2年度目となる2022年4月よりP0兼広報ファンドレイジング担当者を確保し、広報・ファンドレイジングの基盤整備を実施した。2022年8月より他団体への視察やヒアリングを通して広報・ファンドレイジングの課題を洗い出し、自団体をブランディング。ミッションやビジョン、事業内容の認知度向上の手段の一つとして、財団ウェブサイトの「飛び道具」の位置付けでSNS3種を活用。SNS有料広告の運用も開始した。その結果、幅広い属性との接点がうまれた。

⑤環境整備「連携・協働」に関するアウトカム、アウトプット、活動

アウトプット5	指標	初期値	目標値	達成時期
5-1. 定期的に多様なステークホルダーが集まり、地域課題や事業の課題などについて共有する場が設けられている	①本事業の関係者分析を行い、図に表されている	①関係者分析を図に表しているが、関係者ごとのより詳細な分析は実施できていない	①関係図が作成され、各関係者の詳細な分析も行われている	5-1. 2024年1月
5-2. 多様なステークホルダーがお互いを知るためのネットワークの場が設けられている	②地域円卓会議やネットワークづくりのためのイベントの実施回数	②地域円卓会議やネットワークづくりのためのイベントを実施できていない	②地域円卓会議を年に1回以上開催する	5-2. 2024年1月
5-3. 本事業についての情報共有や意見交換ができるコミュニティ（Facebookグループ）ができている	③Facebookグループの運営状況	③Facebookグループを作成できていない	③Facebookグループを作成し、継続的な運営ができている	5-3. 2023年3月
活動	1. 事業のステークホルダーの分析（分析の更新）、2. 地域円卓会議などの実施、3. 事業に関連した Facebook グループの企画・運営、4. 筑後川関係地域のネットワーキング会議、5. 定期的な事業に関連したサロン（オープンな勉強会）の実施			
アウトプット5の実績				

- ①添付資料 5 ステークホルダーマップの通り、本事業の関係者は事業開始時の 38 団体から 49 団体に増加し、関係者を固有名詞で示すことができるようになった。かつ、どのような関係性かについても明らかになった。事業キックオフミーティングや事業報告会開催前には久留米市政記者クラブへの投げ込み及び「PR TIMES」でのリリース配信を毎回丁寧に実施した。添付資料 8 PR TIMES23.3.21 事業報告会 プレスリリース
- ②2022 年 6 月に災害対応についての地域円卓会議を実施したが、本事業についての地域円卓会議は実施できず。月次勉強会、事業報告会、遺贈寄付シンポジウムなどを通して、CSO 同士のネットワークづくりを実施した。
- ③本事業に関わる Facebook グループは作成できなかった。

短期アウトカム 5	指標	初期値/初期状態	目標値/目標状態	目標達成時期
筑後川関係地域を中心に、多様なステークホルダーが社会課題解決のために連携・協働できる環境が整っている (環境整備)	①テーマ（社会課題）毎に多様なステークホルダーが集まり、定期的に地域円卓会議が開催されている ②地域の多様なステークホルダーが（社会課題について）コミュニケーションを取り合っている	①定期的な会議などは実施できていない ②一部の関係者とのコミュニケーションに留まっている	①ステークホルダーが集まる会を年に 2 回以上実施できるようになっている。また、同様の会を事業終了後も継続的に開催できる見通しがある。 ②SNS 上のコミュニティ等でステークホルダー間の自発的なコミュニケーションが生まれている	2024 年 3 月 1 日

アウトカム 5 の実績

①地域円卓会議の形では実施できなかったが、事業キックオフミーティング 1 回（参加者 50 名程度）、事業報告会 4 回（各回の参加者 50 名程度）、月次勉強会等 26 回（参加者合計 412 名）実施し、合計 662 名の関係者と課題や事業について共有する場を定期的に設けることができた。②2 つの実行団体、当財団の関係者の増加から、各ステークホルダーのコミュニケーションが活発になっていると考えられ、当財団の勉強会や報告会でつながった団体同士がお互いを訪問をするなどの展開が一部で生まれている。

アウトカム 5 の達成度

■ 目標値を上回っての達成（3 点） ■ 目標値通りの達成（2 点） ■ 目標値を概ね達成（1 点） ■ 目標値を達成できていない（0 点）

結果の要因と課題（アウトカムについての考察）

①地域円卓会議を実施するための知識・技術が十分ではなかったこと、準備のための時間を確保できなかったこと、円卓会議実施により何を指すかなどを明確にできず、本事業においては実施に至らなかった。ただ、本事業に関する報告会や勉強会を数多く実施したことで、多様なステークホルダーが定期的に集まる機会を創出できた。本事業により報告会、月次勉強会の実施が定着した取り組みとなったため、今後も関係者が定期的に顔を合わせ、テーマについて協議できる環境が整ったと考える。

②実行団体向けの勉強会に、当財団の独自プログラムで助成している（したことがある）団体やその他の CSO を呼ぶことにより、団体間の交流が生まれ、実行団体を訪問する地域の CSO が出てきている。このような交流から休眠預金活用事業への理解も広まっており、実行団体を目指す団体も出始めている。

SNS グループなどコミュニティを作れていれば、さらに自発的で活発なコミュニケーションが生まれていたと考えられる。今後は、Slack や LINE グループ、FB グループなどで社会課題ごとのコミュニティ作りに取り組みたい。

以上より、「筑後川関係地域を中心に、多様なステークホルダーが社会課題解決のために連携・協働できる環境が整っている」は目標値を概ね達成していると考えられる。

⑥環境整備「資金分配団体の組織基盤強化」に関するアウトカム、アウトプット、活動

アウトプット6	指標	初期値	目標値	達成時期
6-1. 当財団の組織診断・評価の結果に基づき、当財団の組織基盤強化についての計画が立案され、実行されている 6-2. 事業を企画・運営できるプログラムオフィサー（P0）が確保・育成されている 6-3. 当財団の財政基盤が強化されている	①当財団の組織診断・評価が行われ、組織課題が明らかになっている ②P0 の能力を評価する方法ができているか ③P0 が 3 人以上在籍し、個々の能力強化が図られているか ④当財団のファンドレイジング計画を立案し、実行している	①当財団の組織診断・評価を実施できていない ②P0 が 2 人在籍しているが、P0 歴が 9 ヶ月とまだ十分な経験がない ③ファンドレイジングについての計画を立案できていない	①当財団の組織診断・評価が行われ、組織課題が明らかになっている ②P0 の能力を評価する方法ができている ③P0 が 3 人以上在籍し、個々の特性に応じて能力強化できている ④ファンドレイジングについての計画を立案し、実行している	6-1. 2022 年 9 月 6-2. 2023 年 9 月 6-3. 2023 年 9 月
活動	1. 当財団が非営利組織評価センターからの評価（グッドガバナンス認証）に関わる活動 2. NPC ガイド、IIHOE の支援力アセスメントシートなどを活用した組織診断・評価の実施 3. 当財団の組織基盤強化についての計画立案 4. 当財団のファンドレイジング計画の立案と実行 5. P0 人材の確保 6. P0 の能力強化（調査・情報収集力の強化、課題分析力の強化、相談対応力の強化、編集・発信力の強化、コーディネート・ネットワーキング力の強化、評価についての能力強化、資金調達力の強化） 7. P0 評価表の作成			
アウトプット6の実績				

①日本非営利組織評価センターによるアドバンス評価を受け、評価結果から労務関係の書類整備、財務諸表の注記についての改善を行った。その結果、2022年11月に福岡県で初めてグッドガバナンス認証を取得した（添付資料9_グッドガバナンス認証 JCNE プレスリリース）。引き続き、組織体制の強化に努め、2024年度中の公益財団法人化に向けて活動をしている。組織診断は技術・知識不足から実施できていない。

②P0 能力評価の方法については、評価アドバイザーである中村寛樹教授（久留米大学）と検討している段階。案件形成期、公募期、事前評価期、中間評価期、事後評価期、通常時の時期ごとに全 P0 業務の洗い出しを行い、業務ベースで必要な能力の検討をしている。

③事業開始時には常勤 P01 名だったのに対し、事業終了時には常勤 P03 名（うち准認定ファンドレイザー2 名）、P0 補佐 2 名と P0 人材が 5 名在籍している。ジャンピアの研修会や実際の伴走支援などを通して能力強化を図っている。個々の能力に合わせた役割分担（事業統括、広報、ファンドレイジング、事業運営、評価など）もできている。また、添付資料 6_行政担当課へのヒアリング結果では「今回のちくご川コミュニティ財団の支援は、行政が直接実施することができない支援を実施していただいたという点で、非常に意義のあるものである。行政は、平等性やリソースの観点から、特定の団体に今回のような支援を実施することは難しい。CCF の支援は、客観性・透明性が担保されており、今回の成果からプログラムオフィサーの専門性を活かした質の高いものとなっていることが認められる。」とのコメントがあり、本事業により伴走支援、P0 の重要性を行政側も認知したと考えられる。

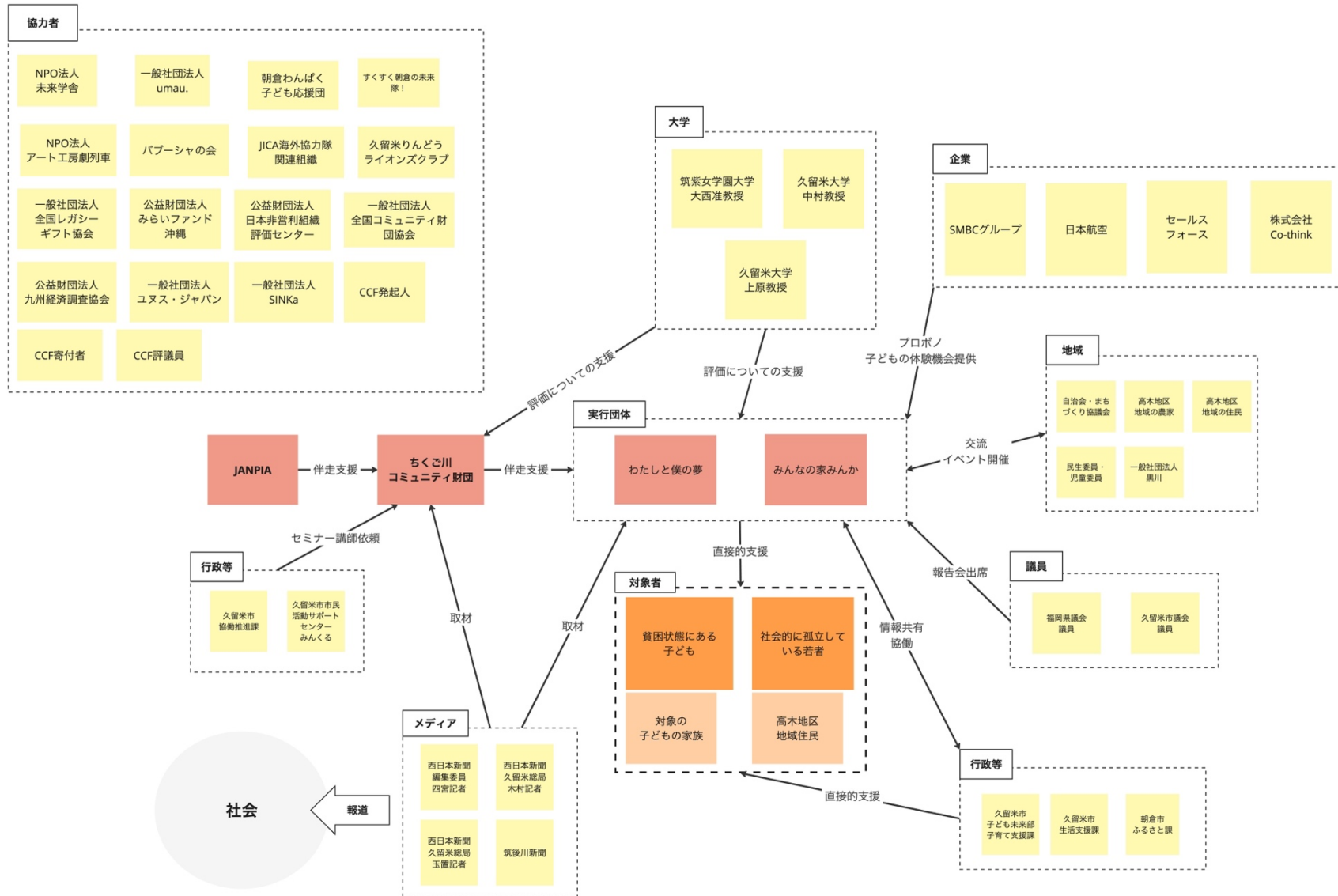
④寄付決済・支援者管理システムの導入とウェブサイトのリニューアルを実施。2022 年 12 月オンライン寄付募集開始、2023 年 3 月新サイト公開。同 4 月に支援者情報 DB 化完了。ファンドレイジングの基盤整備で寄付実績を底上げした。准認定ファンドレイザー資格保有者の P0 2 名が認定ファンドレイザー資格取得等次のステップを、2024 年 1 月より正職員雇用した P0 は准認定ファンドレイザーの資格取得を目指している。寄付の全国的キャンペーン「寄付月間」に事業年度 2 年目から毎年参画。賛同企画として毎年主催する勉強会に実行団体も参加し寄付の学びを体系的に深めた。自団体と実行団体の遺贈寄付の受け入れ強化のため、事業年度 2 年目より全国レガシーギフト協会の正加盟団体に登録。遺贈寄付に関するワークショップやシンポジウムを毎年開催し、筑後川関係地域における遺贈寄付の啓発に貢献した。事業最終年度には、当財団 2 例目となる遺贈寄付を受遺。「遺贈寄付ウィーク 2023」の取り組みでウェブ公開された全国 25 団体の遺贈寄付ストーリー（冊子も発行）のうち、当財団のストーリーが PV162 と第 3 位にランクインした（同協会によるアクセス解析報告に基づく）。添付資料 10_遺贈寄付、寄付月間について

短期アウトカム 6	指標	初期値/初期状態	目標値/目標状態	目標達成時期
筑後川関係地域において、当財団が市民活動団体の事業を十分に伴走支援できるようになっている （環境整備）	①当財団の組織診断・評価がなされ、良好な結果が出ている ②当財団の財務状況が組織診断チェックリストにて健全と判断されている	①非営利組織評価センターのグッドガバナンス認証を受けることが決定している。自己評価による組織診断などを実施できていない。 ②チェックリストによる評価が実施できていない。休眠預金等活用事業による助成金がある状態では事業運営できる財務状況である。	①グッドガバナンス認証の取得、組織診断結果の改善 ②組織診断チェックリストにより財務状況が健全と判断され、休眠預金等活用事業による助成金がなくとも、持続可能な事業運営ができる財務体制となっている。	2024 年 3 月 1 日

アウトカム6の実績	
①グッドガバナンス取得後、公益財団法人化に向けて、内閣府への申請前相談、定款・規定類の改定・追加、事業計画（短期、中期）の策定等を実施し、更なるガバナンス・コンプライアンス体制の強化を図っている。 ②添付資料 11 経常収益、寄付実績推移の通り、本事業を開始した 2020 年度（2020 年 8 月～2021 年 7 月）の当財団の経常収益が 13,167,973 円（内訳：受取補助金（休眠預金）12,309,798 円、寄付金 858,000 円、その他 175 円）に対し、2023 年度は 183,529,562 円（内訳：受取補助金（休眠預金）177,147,990 円、寄付金 6,231,572 円、その他 150,000 円）と 13.9 倍まで増加した。内訳ごとに見ると、受取補助金が 14.4 倍増、寄付金が 7.3 倍増である。	
アウトカム6の達成度	■ 目標値を上回っての達成（3 点） ■ 目標値通りの達成（2 点） ■ 目標値を概ね達成（1 点） ■ 目標値を達成できていない（0 点）
結果の要因と課題	
①休眠預金活用事業の申請に合わせて、必要な規定類の整備をしていたが、グッドガバナンス認証取得のためのアドバンス評価を受けることで、労務関係の規定や財務諸表の注記に関わる改善などを実施できた。その他にも、「市民参加」、「コンプライアンス（ハラスメントに関する項目）」、「情報発信」などの改善推奨との評価を受けた項目の改善に努めた。次のステップとして、公益財団法人化を目指し、その過程で更なる組織体制の強化ができると考える。 ②事業開始時と比べ、当財団の財源は大きく拡大した。これは休眠預金活用事業の複数採択（2020 年度通常枠、2021 年度通常枠、2023 年度通常枠・緊急枠）によるものが大きい。寄付収入も 7.3 倍と大きく成長しており、休眠預金に頼らない財源の確保も進んでいる。本事業の実施により、P0 が確保・育成された。評価の能力を向上することで、課題の分析からの事業設計という案件形成力の向上にもつながったと考えられる。また、本事業の実施により見えてきた新たな課題（家庭の困難）について深堀調査を行うことで、課題を軸に事業を発展させていく型ができたと考える。寄付収入の増加については、事業途中より P02 名体制が取れ、2 名とも准認定ファンドレイザーを取得し、ファンドレイジングを体系的に理解した上で、活動できるようになったことが大きく影響していると考ええる。また、P0 の役割を 1 名が「事業・評価」、もう 1 名が「広報・ファンドレイジング」とはっきりさせたことで、連携が促進された。寄付管理システムのコングラントの導入、公式ホームページのリニューアル、ニュースレターの定期発行、SNS での高頻度の発信、クラウドファンディングの実施などの取り組みにより、当財団のファンドレイジング能力を高めることができたと考ええる。 以上より、「筑後川関係地域において、当財団が市民活動団体の事業を十分に伴走支援できるようになっている」は目標値を上回って達成できていると考える。	
【アウトカム達成度についての総合評価】 複数のアウトカムの達成度を踏まえ、取りまとめ総合的に評価	
アウトカムの総合的達成度	■ 目標値を上回っての達成 ■ 目標値通りの達成 ■ 目標値を概ね達成 ■ 目標値を達成できていない
評価の根拠	資金的支援の短期アウトカム 6 つのうち、「目標値を上回っての達成」が 3 つ（9 点）、「目標値通りの達成」が 1 つ（2 点）、「目標値を概ね達成」が 2 つ（2 点）であり、平均点 2.1 であるため、目標値通りの達成と判断した。 非資金的支援の短期アウトカム 6 つのうち、「目標値を上回っての達成」が 1 つ（3 点）、「目標値通りの達成」が 4 つ（8 点）、「目標値を概ね達成」が 1 つ（1 点）であり、平均点 2.0 であるため、目標値通りの達成と判断した。 全 12 個の短期アウトカムの合計は 25 点であり、平均点は約 2.0 であるため、「目標値通りの達成」と総合的に判断した。

2-2-3. 外部との連携実績

「アウトプット5の実績」に記載の通り、本事業の関係者は事業開始時の38団体から49団体に増加し、関係者を固有名詞で示すことができるようになった。かつ、どのような関係性かについても明らかになった（下記、[ステークホルダーマップ](#)参照）。



2-2-4. 事業による波及効果（想定外の効果、波及的・副次的効果）

【資金的支援】

短期アウトカム	波及効果
1. わたしと僕の夢に在籍している子どもや卒業生（高校生）が様々な困難を抱えても、安心して帰って来られる居場所・相談場所を持続的に運営できている	卒業生が大学進学後に講師として居場所に戻ってくるなど、高校卒業後にも帰って来られる場所となっており、かつ、人材が循環し担い手が生まれ始めている。
2. わたしと僕の夢に在籍している子ども達の非認知能力や学力が向上し、子ども若者が希望する進学や就職につながっている	イベント・体験プログラムのみならず、軽音部が生まれたことにより、卒業生6名で3overというバンドを結成することができた。部内での衝突がありながらも、スタッフに見守られながら、自分たちで問題解決をし、人前で楽曲演奏ができるまでになった。これは卒業生の結束を強くし、意欲、粘り強さ、協調性、計画性などの能力を向上したと考える。
3. わたしと僕の夢の組織基盤強化を図り、持続可能な事業運営ができている	事業期間中に新たに3つの拠点（佐賀県みやき町、熊本県小国町、オンライン教室）ができ、事業が地域的にも分野的にも大きく拡大し、筑後川関係地域において波及効果をもたらした。
4. 若者がみんかに滞在することで、自分と向き合う時間を持ち、様々な人や物事と出会う中で、自分の生き方をみつけるきっかけができている（みんなの家みんか）	みんかという場所ができたことで、直接的対象者の若者以外の人々との交流も生まれ、事業期間中の交流人口は約9,000人にまで至った。そのつながりから、農業体験、自然体験キャンプ、地域清掃活動などたくさんの活動が生まれた。また、事業期間中にみんか代表のサポートもあり、みんか近隣に移住者が2世帯増えるなど定住人口を増やすという波及効果もあった。
6. みんなの家みんかの事業を継続させるための人づくり、組織づくりを行う	みんかが一般社団法人化したことにより、そのノウハウを生かして同地域に一般社団法人黒川が誕生し、地域の田畑、山林などのリソースを有効活用するための取り組みが始まった。

【非資金的支援】

短期アウトカム	波及効果
1. 実行団体が社会から信頼される体制を整え、円滑な事業運営ができている	実行団体の能力強化のために始めた月次勉強会に他のCSOからも参加があったことにより、CSO間のネットワークができ、自発的な交流が生まれている。

2. 実行団体が自団体の事業について社会に向け発信し、多様なステークホルダーと連携・協働している	企業連携により関わったプロボノチームのメンバーから寄付者・支援者が生まれるなどの波及効果があった。
3. 実行団体が団体運営に必要な資金調達を安定的にできるようになっている	わたしと僕の夢は事業期間中に培ったクラウドファンディングのノウハウについて、他の中間支援団体のセミナーにも講師登壇の依頼がくるようになり、地域のCSOのお手本となっている。
4. 筑後川関係地域を中心に、本事業や解決を目指す社会課題について社会的に認知・理解されている	地元新聞社である西日本新聞社と関係構築が深化、本事業や実行団体への継続的な取材につながり、事業対象地域での認知や理解度が向上した。また記事を読んだ市民や行政、他団体が当財団や実行団体への信頼性を高め連携や支援を生んだ。
6. 筑後川関係地域において、当財団が市民活動団体の事業を十分に伴走支援できるようになっている	休眠預金活用事業により培った資金的支援、非資金的支援のノウハウをもとに、当財団自体の事業を「助成事業（資金支援）」、「組織基盤強化」、「環境整備」の3つに整理できた。これにより、独自プログラムで助成している団体にも資金的支援・非資金的支援を両輪で提供できるようになり、地域の社会課題解決の能力向上に寄与していると考えます。 また、P0の能力向上により、各自治体の市民活動サポートセンターのファンドレイジングセミナーに頻繁に講師登壇するなど、本事業で学んだことを地域に伝えることができている。行政からのガバメントクラウドファンディング、企業連携についての相談もあり、2024年度に向けて具体的な取り組みとなる可能性が高い。

2-2-5. 事業の効率性

包括的支援プログラムとして、資金分配団体事業のインプットに対する資金支援および非資金的支援による成果の規模・質について、事業設計の効率性の観点から、今後のプログラム設計への学びを抽出する。まず、本事業のインプットとして、総事業費は63,499,170円で、内訳は実行団体への助成総額が36,337,700円、管理的経費が5,673,854円、P0関連経費が21,221,595円、評価関連経費が266,021円であった。投入した主な内部人材は、事業統括者1名、プログラムオフィサー2名（主担当、副担当）、事務局長1名、会計管理者1名、会計・総務職員1名で、外部人材として評価アドバイザー2名であった。資機材は、P0用パソコン2台、事務局用パソコン1台、オンラインミーティング用機材（モニター、Webカメラ、マイク）を投入した。

資金的支援として、わたしと僕の夢には18,037,700円の助成を行い、対象の子どもの受け入れ数が7.3倍になり、子どものQOLや非認知能力の向上が認められた。また、団体の職員数や寄付収入が事業前の3倍になるなど組織基盤強化においても大きな成果が上がっている。みんなの家みんかには18,300,000円の助成を行い、若者を受け入れるための居場所のハード・ソフト面の整備が完了し、事業期間中に6名の滞在があった。そこから、地域での就労につながっ

たケースもある。みんなの事業による交流人口は延べで 8,974 人にまで上り、一定の成果を挙げたと考えられる。

非資金的支援として、活用した P0 関連経費は 21,221,595 円であり、これは計画値よりも 4,421,105 円少ない。経費を削減できた要因としては、伴走支援において内部で対応可能なものについては外部委託をせず、プログラムオフィサーが対応するように努めた。また、プログラムオフィサーの能力強化のため、准認定ファンドレイザーの取得、PCM（プロジェクトサイクルマネジメント）研修の受講など各種研修への積極的な参加を行なった。更に主担当 P0、副担当 P0 のそれぞれの強み（事業設計、評価、広報、ファンドレイジングなど）を組み合わせる伴走支援を行うことにより、その効果を高めた。P0 補佐の職員を配置し、P0 のサポートを行える体制を整えるとともに、将来 P0 となれるように OJT にて人材育成に努めた。その結果、本事業の P0 補佐の職員が 2023 年度休眠預金活用事業（通常枠）の P0 となり、P0 のリクルートにかかる経費を削減できた。評価に関しては、担当 P0 が初めて経験することもあり、評価の設計についてのアドバイザーと福祉の分野専門家にアドバイザーとしてついてもらい、評価について学んだ。その結果、プライマリーデータとセカンダリーデータを統合して解釈しながら、課題の分析、事業設計の分析を行うノウハウを身につけることができ、その後の案件形成にもつながった。

本事業は実行団体が 2 つと少ないが、それぞれの団体で質・量ともにインプットに対して一定程度以上の成果を上げることができていると考える。伴走支援においては P0 の能力向上に最大限努めることで、外部委託費などを削減でき、事業の効率性を向上できると考える。

3. まとめ

3-1. 結論

【社会的インパクト評価の構成要素別自己評価】

	多くの改善の余地がある	想定した水準までに 少し改善点がある	想定した水準にあるが 一部改善点がある	想定した水準にある	想定した水準以上にある
(1) 課題やニーズの妥当性					○
(2) 事業設計の妥当性				○	
(3) 実施状況の適切性				○	
(4) 事業成果の達成度				○	

(1) ～ (4) までそれぞれ 1 箇所を選択する。

【自己評価の判断根拠について】

(1) 課題やニーズの適切性

特定された課題（子どもの貧困）の妥当性について

事前評価時の行政資料、先行研究の調査により、筑後川関係地域である久留米市において「子どもの貧困」は他地域に比べて割合が高いことが示された。ちくご川コミュニティ財団が東京大学社会科学研究所中村寛樹研究室（現、久留米大学基盤教育研究センター中村寛樹教授）と共同でまとめた「筑後川関係地域子ども若者の現状と課題」では、2014 年の国民生活基礎調査から、等価世帯所得の中央値 50%以下を貧困と定義すると、全国平均の貧困家庭の子どもの

割合が6人に1人に対し、福岡県は5人に1人、県南の中心都市久留米市では4人に1人であることが分かった。また、日本財団「子どもの貧困の社会的損失推計」レポートによると、子どもの貧困に対し、現状を放置した場合と子どもの教育格差を改善する対策を行った場合を比較したところ、子どもの貧困を放置した場合にはわずか1学年あたりでも経済的損失は約2.9兆円に達し、政府の財政負担は1.1兆円増加するという推計結果が示されている。そのため、他地域よりも子どもの貧困率が高い久留米市において現状を放置した場合、経済的損失や行政にかかる負担は甚大なものになると考えられる。

以上のことから、久留米市において「子どもの貧困」を解決する必要性・切迫性は非常に高く、本事業において課題解決に取り組むべきと考えられる。

特定された課題（子どもの貧困）の構造について

資金分配団体、実行団体による現場調査の結果（プライマリーデータ）と行政資料などのセカンダリーデータを統合して考察した結果、添付資料12 課題のツリー図（子どもの貧困）に示すように筑後川関係地域（久留米市）における「子どもの貧困」についての構造が明らかになった。まず、子どもの貧困を引き起こす要因として、経済的側面では世帯が「ひとり親世帯」、「生活保護世帯」であることが挙げられる。久留米市の調査によると「ひとり親世帯」の特に母子家庭においては56.3%が生活困難世帯であるとされ、子どもの養育や就学に問題があると考えられる。子どもは自ら収入を得たり、環境を変えたりすることが難しく、世帯が相対的貧困の状態にあれば自ずと貧困状態となってしまう。そのため、子どもの貧困の根本原因となっている養育者（親）の貧困についても関係団体と連携しながら解決を図る必要があると考えられる。

そして、「子どもの貧困」により引き起こされる子どもへの影響は、「教育の問題」、「学校生活の問題」、「生活環境の問題」、「様々な体験の機会損失」、そして「人間関係の問題」など実に多岐に渡ると考えられる。これらの問題は課題の構造図に示すように互いに影響し合い、非行や不登校などの問題を引き起こし、また「子どものQOLの低下」、「生きる力の低下」、「希望した仕事ができない」→「収入の低下」、「人間関係資本が少ない」、そして「将来の目標や夢が持てない」など子どもの将来に大きな負の影響を与え、親（養育者）と同様に相対的貧困となる「貧困の連鎖」が起こると考えられる。日本財団の平成28年「子どもの貧困対策プロジェクト報告資料」では、親から子への「社会的相続」という概念が紹介されており、これは「自立する力」の伝達行為」と説明されている。親は子どもに対し経済的な相続のみならず、将来必要な自立するための力を様々な形で伝えていくとされている（図12）。この社会的相続の担い手は、親のみではなく親族や近所の大人、学校の先生や施設の職員の場合もあり、子どもに多様な大人が関係することが重要であると考えられる。

特定された課題（児童養護施設等を退所した若者の社会的孤立）の妥当性について

行政資料・先行研究の調査、関係者へのアンケート・インタビューにより児童養護施設等を退所した若者は様々な困難を抱えながら生活していることが明らかになった。一般的に子どもは親（養育者）から教育的な支援、経済的な支援、そして精神的な支援を受けながら成長するが、児童養護施設等で育った子どもたちは親からの支援を受けにくい（受けられない）状況にある。学校を卒業（もしくは中退）して施設を退所すれば、就職もしくは進学し、若年であるにも関わらず自分で社会を生きていかなければならない。

施設退所者は退所時に就職することが多く、就職率は70.4%と全高卒者の18%と比べてかなり高い値である。東京都の調査によると非正規雇用が46.8%と高い割合になっており、不安定な収入で生活していることが多いと考えられる。また、社員寮に住み込みで働いている場合、突然の解雇や離職により住まいを失うというケースもあり、生活基盤が脆弱である。

一方で、施設退所者の進学率は奨学金制度の拡充などにより改善してきているが、全世帯が73%に対して27.1%とまだかなりの差がある。さらに、ブリッジフォースマイルの調査によると大学等の中退率は16.5%と高い値であり、施設退所者にとって学業を継続することは非常に困難であることが分かる。また、同調査では中退後の無職率は13.6%、現況不明率は25.2%となっており、一旦は進学できた施設退所者でさえもその後のキャリア形成は難しく、経済的困難

を抱える可能性が高いと考えられる。

以上のように児童養護施設等を退所した若者は、就職や進学などに関連して退所後の生活において困難を抱えることが多いが、親や家族・親族との関係がなくセーフティネットを持たない。そのため、社会的に孤立化していく可能性が高いが、行政資料・先行研究の調査結果や専門家へのヒアリングから児童養護施設等を退所した若者へのアフターケアが十分ではないことが明らかとなり、社会課題として解決する必要性が高いと考えられる。

特定された課題（児童養護施設等を退所した若者の社会的孤立）の構造について

資金分配団体、実行団体による現場調査の結果（プライマリーデータ）と行政資料などのセカンダリーデータを統合して考察した結果、[添付資料 13 課題のツリー図（若者の社会的孤立）](#)に示すように「児童養護施設等を退所した若者の社会的孤立」の構造が明らかになった。添付資料 12 の上段（中心課題により引き起こされること）に示すように若者が社会的に孤立した場合、その当事者に「自殺（自殺願望・企図）」、「借金などの金銭トラブル」、「犯罪（加害者・被害者）」、「相対的貧困状態になる」などの多くの深刻な問題を引き起こすことが考えられる。これは当事者個人に与える負の影響も甚大で解決すべき問題であるが、将来を担う若者が働けない状態になることは少子高齢化が進む日本社会への影響という意味でも非常に重大な問題である。

次に、この「若者の社会的孤立」を起こしている原因について添付資料 12 の下段（中心課題の原因となること）に示した。社会的養護にあった若者は家庭での虐待や親との死別、家庭の貧困などを理由に児童養護施設等に入所しており、本来なら家庭で受ける教育を受けられなかったり、親・家族との関係性がなかったりと成長の過程で大きな困難を抱えている。自分の存在が尊重されず自己肯定感が低くなり、自暴自棄になり、学習意欲も湧かず、学力が育まらないという悪循環に陥り、結果、低年齢・低学歴・無資格の状態では社会に出なければならない。職業の選択肢も限られてしまい、就職したとしても非正規雇用などが多く収入が安定しなかったり、保証人がいないため賃貸契約にもハードルがあったりと孤立化しやすい状態である。児童養護施設や自立援助ホームにてアフターケアが実施されているが、相談支援などを担当する職員が不足していたり、職員自身の専門性が足りていなかったり、自立援助ホームには入居の年齢制限があったりと課題が存在している。以上のように「若者の社会的孤立」を引き起こす原因は多岐に渡り、大村(2017)が指摘するように、児童養護施設退所者の支援について、措置延長以外の支援方法の検討・充実の必要性、自立援助ホームの設置のさらなる拡充、他のシェルターの機能を持つ施設の必要性が高いと考えられる。

以上より、本事業による課題やニーズの妥当性は「想定した水準以上にある」と考える。

（２）事業設計の妥当性

上述の課題の分析をもとにロジックモデル、事業計画書（指標、目標値の設定）の作成を行い、個別面談、ワークショップ等で実行団体とも内容の合意形成をした。また、事業設計に対し、2名の評価アドバイザーより「ちくご川コミュニティ財団がアンケート調査とインタビューを交えて、両実行団体に非資金的支援のニーズ調査を実施している。そのニーズ調査で浮き彫りになった問題点をまとめて、8つの短期的アウトカムと合計30にも及ぶ指標を設定した一覧表を作成した。第三者的にみて、こうした膨大な指標に基づく目標値（あるいは目標状態）を全て達成し、短期的アウトカムを上げることは可能か、少々不安もなきにしもあらずというところであるが、本章で示されている本事業のステイクホルダーの協力を得ることができ、着実に目標に近づくことができるようになれば、これまで筑後川関係地域において目にすることが無かった成果を達成することが期待されるのである。（久留米大学経済学部伊佐教授）」、「ちくご川コミュニティ財団が構想する本事業の特筆すべき点として、流域単位という枠組みで総合的に事業設計、事業推進する点にある。コロナ禍において九州地域では記録的な大雨による水害・土砂災害が頻発し、それにより多層的な危機に直面している昨今の地域の現状を鑑みると、本事業の社会的意義は大きい。また、流域圏に着目して、自然災害も想定した、行政界を超えた社会的セーフティネットを作るための重要な取り組みとして高く評価できる。（中略）実行団体の両者に共通することは、長期的なサポート・環境づくり、拠点づくりであり、地域に根差した各団体だからこそ可能となる大変重要な草の根

活動であると評価できる。また、そこに至る、地域や関係者への入念な事前調査や分析、さらには、それに基づいた事業計画と、その関係性を明確にするためのロジックツリーの構築および評価のための指標などの設定は、本書で示されている通り、十分であると考えられる。本事業が計画に基づいて着実に実施され、その効果が的確に評価されることで、対象地域のみならず、他地域へのモデルとなりうる。（久留米大学基盤教育研究センター中村教授）」とのコメントを得ている。

以上より、事業設計の妥当性は「想定した水準にある」と考える。

（３）実施状況の適切性

本報告書 p34 の非資金的支援アウトカム 1 の実績に記載の通り、両実行団体の活動（資金的支援の活動）の実施率は 90%を超えており、アウトプットも 16 個中 13 個が目標値を達成できていた（発現率 81%）。また、非資金的支援の活動は計画していた 56 個中 50 個を実施できた（実施率 89%）で、アウトプットは 21 個中 17 個が目標値を達成できた（発現率 80%）。以上のことより、実施状況の適切性は「想定した水準にある」と考える。

（４）事業成果の達成度

本報告書 p41 「アウトカム達成度についての総合評価」より、事業成果の達成度は「想定した水準にある」と考える。

3-2. 提言（本事業をどのように継続・発展させるか、休眠預金に依存せずに自走化させるための戦略）

わたしと僕の夢の事業では、経済的に困窮している世帯の高校生への支援ニーズが非常に高いことが明らかとなった。一般に、義務教育期間中の小中学生に比べ、高校生への公的支援制度は少ない。本報告書 p14～19 の資金的支援のアウトプット、短期アウトカムの実績で記載した通り、高校生を受け入れることにより大きな成果が上がった。この成果をもとに、制度化に向けて久留米市担当課との情報交換を行っている。高校生受け入れに必要なだったインプット等を具体的に示しながら、予算化をより現実的なものにしていきたい。また、事業期間の後半には高校生の就労支援に関する取り組みも始まり、学び、体験し、学力や非認知能力を向上し、就労に繋がるという流れもできてきているため、これをより発展させていく必要がある。現在、久留米市の新規の委託事業により就労に関する活動が強化されている。本事業で確立した食支援と学習・体験支援を合わせた仕組みを他地域により広めることで、筑後川関係地域における子どもの貧困に関わる課題の解決できると考える。

みんなの家みんなの事業では、自立援助ホームなどの既存の制度では支えることが難しい若者を支援できることが明らかになってきているが、事業の性質上、公的な支援制度に結びつけることは難しい。また、団体の考えとして、寄付による収入には抵抗がある。そのため、事業を継続・発展させていくためには、若者の社会的孤立を解決しながら、収益をあげることができる事業に成長させる必要がある。現在、経営コンサルティング会社のプロボノが始まり、既存商品をどのように販売していくかについて検討している。

当財団の事業としては、環境整備の中に自団体の組織基盤強化の計画を入れることで、3 年間の成長戦略を実践することができた。複数年度の休眠預金活用事業を運営しながら、3 年間で寄付収入 6.1 倍増を果たし、休眠預金活用のその後を見据えた活動を実施している。これまでは基金ごとの寄付募集に注力してきたが、財団自体を支援するというマンスリーサポーターのプログラムをコングラントの伴走支援のもとに開始している。休眠預金活用により、事業が成長し、財団自体への共感やファン層が増えてきており、地域でちくご川コミュニティ財団を支える仕組みづくりもできると考える。また、JICA 海外協力隊経験者等から PO 人材を積極的に採用し、育成プログラムを確立させることで、個の能力の強化と少ないメンバーでグループダイナミクスを起こせる環境をつくっていく。

3-3. 知見・教訓（類似課題への取り組みに参考となる事柄）

【ガバナンス・コンプライアンス強化のための外部評価制度の活用】

事業の初期段階において、弊財団は日本非営利組織評価センターによるアドバンス評価を受けた。この評価によって、組織内部の改善点が明確化された。この評価に基づき、労務関係の書類整備や財務諸表の注記が改善され、2022年11月には福岡県で初のグッドガバナンス認証を取得した。組織のガバナンス強化は、外部評価の導入によって効果的に進められることが確認された。資金分配団体が認証を取得することで、実行団体に対しても認証取得の働きかけが容易になり、「わたしと僕の夢」がベーシックガバナンスチェックを受けることに繋がった。今後、ガバナンス・コンプライアンスの強化を目指す他の組織にとっても、外部評価を積極的に活用することで、組織体制の整備と信頼性の向上が期待できる。

【ファンドレイジング成功のための環境整備の必要性】

寄付決済システムの導入やウェブサイトのリニューアルなどの環境整備は、ファンドレイジングの成功に繋がる。弊財団の寄付収入が事業開始前から7.3倍に増加した背景には、P0のファンドレイジング能力の向上と、それを支えるシステムの導入が大きく影響している。特に、寄付管理システム「コングラント」の導入が、寄付者情報の一元管理を可能にし、効率的な寄付活動を支える基盤となった。組織が持続可能な資金調達を実現するためには、適切な技術インフラの整備を行い、寄付募集に関わる活動を強化する必要がある。

【事前評価における課題の分析】

本事業では、事前評価時に子どもたちや若者たちの声をしっかりと収集し、それを行政資料や文献といった2次情報と統合することで、課題のツリー図を作成した。このツリー図は、その後の事業設計の確度を高める上で大いに貢献した。「子どもの貧困」の原因を分析し、その根っこにある家庭が抱える課題にフォーカスしたことで、「家庭支援」に関わる新規の休眠預金活用事業の開始に繋がった。これは、課題分析がいかに事業の発展に寄与するかや、課題を構造化することの意義を示している。

【PCM手法を援用した事業設計と進捗管理】

PCM（プロジェクトサイクルマネジメント）の手法を用いた事業設計や進捗管理も、本事業の成功に大きく貢献した。PCMにおける「関係者分析」→「問題分析」→「目的分析」のサイクルを回すことで、課題のツリー図やロジックモデルの作成がスムーズに行われた。また、PCMの活動計画表を参考にすることで、事業進捗の管理も効率的に進めることができた。PCMと休眠預金活用事業の相性は非常に良いと考える。

【資金分配団体P0の体制・関係性構築の重要性】

最後に、P0の役割が事業の成功に不可欠であり、P0の能力には、「調査・情報収集力」、「課題分析力」、「相談対応力」、「編集・発信力」、「コーディネート・ネットワーキング力」、「評価」、「資金調達力」など、幅広いスキルが求められる。これらの能力を一人のP0が全て持っているわけではないため、事業ごとに能力値が異なる2～3名のP0人材に関わる体制を整備することが重要である。P0それぞれが自分の強みを認識し、能力を掛け合わせることで、効果的な伴走支援が可能となる。P0が「現場重視」の姿勢で、実行団体や関係者と直接対話を重ねることで信頼関係を築き、なんでも言える関係を構築しておくことが大切である。P0が「Warm Heart, Cool Head（熱く、温かい心と冷静な頭）」を持ち、対象者には温かく、実行団体には熱意を持って接し、論理的な道筋で事業を設計することが成功に不可欠であると考えられる。

添付資料（下記リンクより資料を参照できます）

[添付資料 1_ロジックモデル完全版](#)

[添付資料 2_子どもに関わるアンケート調査](#)

[添付資料 3_月次勉強会実績](#)

[添付資料 4_組織図](#)

[添付資料 5_ステークホルダーマップ](#)

[添付資料 6_行政担当課へのヒアリング結果](#)

[添付資料 7_ニュースレター発行一覧](#)

[添付資料 8_PR TIMES23.3.21 事業報告会 プレスリリース事例](#)

[添付資料 9_グッドガバナンス認証 JCNE プレスリリース](#)

[添付資料 10_遺贈寄付、寄付月間について](#)

[添付資料 11_経常収益、寄付実績推移](#)

[添付資料 12_課題のツリー図（子どもの貧困）](#)

[添付資料 13_課題のツリー図（若者の社会的孤立）](#)

